



# 社会福祉法人 ひとつの会

## 令和5年度 事業報告

### ひとつの会 事業推進本部

---

#### 【事業基本方針】

1. 法人基本理念： 人の為に走れ

2. 法人運営目標

#### 【利用者・家族の為に】

支援を必要とするすべての人の期待や要望を的確に把握し、自立した笑いの絶えない生活の場の実現を目指す。

#### 【職員の為に】

職員は、すべての面において働き甲斐のある職場環境の構築と、職員や家族が心から利用したい法人になることを目指す。

#### 【地域の為に】

地域の福祉拠点として情報を発信し、ふれあいを大切にしながら、地域への参加受け入れを行い地域福祉の発展に貢献する。

3. 法人運営方針

#### 【利用者・家族の為に】

- ・ 質の高いサービス提供により、安全・安心のサービスを追求する。
- ・ 個人の自主性を尊重し、家族の意見も取り入れた利用者本位のサービスを推進する。
- ・ 相互理解と説明同意により、納得のサービスを推進する。

#### 【職員の為に】

- ・ チームワーク重視と資質向上への支援をし、安心して仕事のできる職場にする。
- ・ 健全な運営と公平な評価により、働き甲斐のある職場にする。

#### 【地域の為に】

- ・親切、丁寧、即対応により、信頼サービスを追求する。
- ・関係機関と連携を密にして地域福祉の推進と向上に努める。

### 【具体的事業報告】

#### 4. 理事会・評議員会の開催

##### 【理事会】 3回

- ・令和5年5月26日開催
  - 議案第一号 令和4年度 事業報告(案)の承認について
  - 議案第二号 令和4年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算(案)の承認について
  - 議案第三号 役員賠償責任保険の加入について
  - 議案第四号 理事、監事の改選に伴う評議員会への推薦書(案)について
  - 議案第五号 評議員会の招集について
  - 報告第一号 評議員選任・解任委員会に於ける評議員の選任結果について
  - 報告第二号 福祉充実残高について
  - 報告第三号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
- ・令和5年11月18日開催
  - 議案第一号 令和5年度資金収支中間報告及び資金収支補正予算(案)の承認について
  - 議案第二号 佐野事業所 エアコン取替工事の契約について
  - 議案第三号 評議員会の招集について
  - 報告第一号 令和5年度上期 入退職状況について
  - 報告第二号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告
- ・令和6年3月9日
  - 議案第一号 令和5年度 資金収支中間報告及び資金収支二次補正予算(案)の承認について
  - 議案第二号 令和6年度 事業計画(案)及び、予算(案)の承認について
  - 議案第三号 評議員会の招集について
  - 報告第一号 外国人技能実習生の受入状況について

報告第二号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

報告第三号 宇部事業所で発生した事案について

#### 【評議員会】3回

##### ・令和4年6月10日

議案第一号 令和4年度 事業報告(案)の承認について

議案第二号 令和4年度 社会福祉法人会計、及び公益法人会計に於ける収支決算(案)の承認について

議案第三号 役員賠償責任保険の承認について

議案第四号 理事、監事の改選(案)について

報告第一号 評議員選任・解任委員会に於ける評議員の選任結果について

報告第二号 福祉充実残高について

報告第三号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

報告第四号 令和4年度 拠点別ヒヤリハット・事故報告

##### ・令和5年12月2日

議案第一号 令和5年度資金収支中間報告及び資金収支補正予算(案)の承認について

議案第二号 佐野事業所 エアコン取替工事の契約について

報告第一号 令和5年度上期 入退職状況について

報告第二号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

##### ・令和6年3月23日

議案第一号 令和5年度 資金収支中間報告及び資金収支二次補正予算(案)の承認について

議案第二号 令和6年度 事業計画(案)及び、予算(案)の承認について

報告第一号 外国人労働者の受入状況について

報告第二号 理事長及び業務執行理事の職務執行状況の報告

報告第三号 宇部事業所で発生した事案について

## 5. 監査の実施

【決算監査】1回 令和5年5月23日(火) 午後4時～午後5時

堀越政美監事、久保田克秀監事、2名により、令和4年度法人並びに施設の事業報告、決算書並びに理事の業務執行の状況及び財産の状況について、社会福祉法第40条及び関係法令に基づき監査が、社会福祉法人ひとつの会 事業推進本部にて実施された。

監査の結果、法人並びに施設の事業報告、決算報告、決算付属明細表、財産目録等いずれも適正であることが承認された。

## 【令和5年度の状況・評価】

### 6. 事業運営

令和5年5月以降、新型コロナウイルス感染症の類型が、2類から5類相当へ移行したことにより、各事業所における利用状況や職員配置等の心配も緩和されたことにより、安定した運営が戻ってくると思われたが、現実として、感染症が無くなったわけではないため、一部の事業所では、職員配置がうまく出来ない部署や休業を余儀なくされる場所もあった。

前年度から引き続き影響を及ぼしているのが、食材料、物品、及び契約事に至るまでの物価高騰の波であった。光熱水費についてはやや安定はしたものの高止まりの感があるなど、どれも前年度を上回る支出があり、収支にも影響が生じた。

BCP（事業継続計画）の策定は、各事業所とも規程については終了した。費用面など重要課題があるが、着実に進めていきたい。

### 7. 人材確保 等

職員の入退職状況については、報告書を参考にさせていただきたいが、ハローワーク（公共職業安定所）、法人内職員紹介制度、人材紹介業者、人材派遣業者など幅広いツールを駆使して求人募集してきた結果、職員数だけ見れば、ほぼ充足した状況である。しかし、事業所によっては、時間外勤務が非常に多いところもあり、業務効率化は今後の課題である。

外国人雇用については、特定技能外国人材紹介サービスの契約を実施し、技能実習生の雇用から特定技能外国人の雇用へ転換することとなった。次年度に雇用する技能実習生を最後とし、3年後には技能実習から特定技能への転換者を含め、特定技能への切替が進むこととなるが、業務はもちろん、生活その他を支える事業所及び法人の体制については、暗中模索状態であり、今後さらなる検討や体制の強化が必要となる。

## 8. 地域連携

デイステーションの開催援助（送迎、指導員派遣）、各拠点での介護者教室や認知症介護啓発事業など、実施することができた。但し、上記の7.人材確保 等と重複するが、時間確保が非常に困難な状況である。本業務の間で実施するには、限界が生じてきた。地域との連携は、今後必要不可欠となるが、余裕がないために新たな開拓ができない状況が続いている。

## 法人 行事報告（案）

月	施設長会議・全体会議実施項目	その他 法人行事（備考）
4	4/25 令和5年度事業計画 4/25 施設長会議	4/1 新入職員入職式 4/1 新入職員研修（～4/14）
5	5/23 研修会（熱中症対策） 5/30 施設長会議	5/23 監事監査 5/23 評議員選任・解任委員会 5/26 第1回 理事会（決算・事業実績報告）
6	6/29 施設長会議	6/10 第1回 評議員会（決算・事業実績報告） ストレスチェック（法人全体）
7	7/25 研修会（アンガーマネジメント研修） 7/25 施設長会議	職員健康診断（夜勤・宿直勤務職員）
8	8/22 研修会（ストレス対策） 永年勤続表彰 8/29 施設長会議	
9	9/26 研修会（腰痛予防） 9/26 施設長会議	
10	10/24 研修会（感染症対策） 10/24 施設長会議	
11	11/28 施設長会議	11/18 第2回 理事会 （中間決算報告・一次補正予算案） 11/21 経営会議
12	12/26 研修会（虐待・身体拘束） 12/26 施設長会議	12/2 第2回 評議員会 （中間決算報告・一次補正予算案）
1	1/30 施設長会議⇒2/1に延期	職員健康診断（法人全体）
2	2/27 研修会（誤嚥防止） 2/27 施設長会議	職員健康診断（法人全体）
3	3/26 令和5年度研究発表 （たまのや AGEs について） 3/26 施設長会議	3/9 第3回 理事会 3/23 第3回 評議員会 （二次補正予算案・予算案・事業計画案） 職員健康診断（法人全体）

## ケアハウス あいおい苑

### 【事業基本方針】

入居者の生活を大切にし、安心して普通の生活が送れるような生活空間・人間関係の構築を目指す。

### 【目的】

利用者一人一人の“生活”を大切にし、当たり前のことが当たり前にでき、利用者が苑で快適に普通の生活が送れるように環境を整え、適切で質の高いサービスを提供する。

疾病や障害があっても、利用者様や御家族の意向を尊重しながら、苑での生活を希望される限り、安心・安全・安楽に配慮し援助する。

### 【入居者の状況報告】

入所者…19名、退所者…19名

### 【具体的事業報告】

～ 介 護 ～

#### 1. “生活”という視点を持ち、共に“生活”する・共に“楽しむ”ことに努めた。

自分が生活したいと思える環境作りを行う上で、少しでも苑生活が楽しく過ごせる様に、入居者のニーズにあった取り組みを勧めてきた。コロナ禍で外出もほとんど出来なかったが施設内で出来る事を考え行った。また、家庭的な雰囲気を感じてもらえる様に心がけた。

その主な活動として、次の事を行った。

- ・入居者の誕生日には誕生日会を開き、喜んでもらえるようその方の食べたい物を作り、皆でお祝いをした。
- ・苑の畑で採れる野菜を使ってユニットで調理し皆でいただいた。また、ユニットでも入居者様と一緒に野菜を育て収穫し料理した。
- ・安全で楽しく食事が出来るよう、食事前に嚥下体操を実施した。
- ・ユニットでの行事を企画し、実施した。(料理・ゲーム等)
- ・1週間に1度喫茶を開催した。

#### 2. コロナ禍だが、家族や地域との繋がりを維持し、少しでも深められるよう支援した。

今年度もコロナ禍で毎年行っていた家族交流会や夏祭りが行えなかった。しかし、地域との繋がりで小学生や保育園児の慰問は今年も行う事ができ、入居者様がとても喜ばれていた。面会に関しても玄関でドア越しや決められた場所で距離をとり、限られた時間での面会となり、入居者やご家族には寂しい思いをさせてしまったが、顔を見て話をする事で安心はして

もらえた。

- ・年2回の“お便り”（利用者状況提供書）による日常生活のお知らせを発送した。
- ・毎月の行事・活動などをお知らせする広報誌（ななお）を作成し、家族へ発送した。

### 3. 利用者の生活を最後まで支援できる体制作りに努めた。

看取りについて介護職・看護職・その他の専門職が連携し、最後までその人らしい生活を送っていただけるように次のような支援を行った。

- ・看取りの生活を最優先し、安心して生活を送れるよう支援した。
- ・利用者・家族の意思を尊重したケアを行った。
- ・利用者の疼痛緩和に努め、併せて精神的痛みへのアプローチも行った。
- ・最後までその人らしく生きる事ができるよう職員一人ひとりが考え、ケアにあたった。
- ・家族へこまめな情報提供や現状報告を行うとともに、家族の精神的なケアも行った。

“介護・看護に関する知識や専門技術向上”として、多くの職員が参加できるよう施設内勉強会を勤務時間内にグループホームと合同で開催した。

4月…食中毒・看取りについて

5月…食中毒・看取りについて

6月…食中毒・看取りについて、認知症について

7月…ハラスメント・リスクマネジメントについて

8月…ハラスメント・リスクマネジメントについて、身体拘束について（コロナで中止）

9月…ハラスメント・リスクマネジメントについて

10月…高齢者虐待・身体拘束について、介護技術について

11月…高齢者虐待・身体拘束について

12月…高齢者虐待・身体拘束について、接遇について

1月…認知症・感染症について

2月…認知症・感染症について、リスクマネジメントについて

3月…認知症・感染症について

～ 看 護 ～

#### 【運営方法】

専門職として関係職種との連携を行い、利用者様に介護・医療のサポートを行う。

必要時、苑内看護の実施と充実および通院治療の支援を行う。介護職員に対する基本的な医療・看護技術・知識の習得および助言を行う。

#### （安全）

- \* 利用者の健康診断の計画実施 胸部レントゲン撮影 \* インフルエンザワクチン接種
- \* コロナワクチン接種

\* 医療行為◇喀痰吸引 胃瘻管理 採血 在宅酸素管理

\* 訪問看護との連携 \* 感染防止活動

### (勉強会の開催)

感染症対策 看取り 急変時の対応

### (安楽)

\* 利用者各々の疾患に対して適切な指導、援助 \* 苦痛の緩和 \* 看取りケアの実践

・カンファレンス ・情報交換、意向確認 ・エンジェルケア ・死生観教育 ・グリーフケア

### (安心)

\* 年間を通し昼間は最低 2 名以上の配置 \* 夜間オンコール体制

\* 受診介助 (339 名) \* 入院介助 (17 名)

内訳 (入院・転居・死亡)	
入院	・肺炎・・・1名 ・脳梗塞・・・2名 ・骨折・・・1名 ・心不全・・・3名 ・その他・・・3名
転居	6名 (入院後の退所)
死亡	・死亡・・・3名

ケアハウス看護の目標、『利用者や家族の意向を尊重しながら安全・安心・安楽に配慮し援助する』を日々努力してきた。

8月、コロナ陽性者が2Fユニットに蔓延し、クラスターとなった。保健所指導のもと約1ヶ月程度2F全体を閉鎖し、感染対策を徹底した。職員も数名の罹患者が出た。

令和6年1月初めより、利用者5~6名がインフルエンザ陽性となり、居室対応とし感染対策を行った。

当苑での看取りも12名あり、利用者の尊厳を守り、家族の意向をくみ取り、スタッフ、苑関係者と連携し最後を看取ることができた。

年間、受診介助(339名)・入院介助(17名)・インフルエンザワクチン及びコロナワクチン予防接種・内服薬管理・健康管理等、業務の中でも家族との信頼関係の構築を重視し連絡を細目に行い、疑問・心配事・不満について拝聴し、説明を行い解決するように努力した。

### ～ 相談 ～

施設の窓口としての役割を担い、利用者および家族からの相談や、各種職員との連携・サポートについて、誠意をもって応じるように努めた。

\* 利用者・家族・職員・関係事業所との関係構築を目的に主に以下の通り業務に努めた。

- ・ケアハウス・GHの病院受診補助
- ・入退院の調整

- ・入退居の調整
- ・事故・苦情相談による対応
- ・広報誌“ななお”を作成し家族へ発信・ホームページへの掲載
- ・新型コロナウイルスに関連する連絡、対応調整
- \* あいおい苑の入退居、空床状況を随時確認しながら、外部・他部署・関係事業所との連携を図った。
- ・居宅支援事業所や地域包括支援センター、介護老人保健施設、医療機関へ空床状況等の情報共有

### ～ 機能訓練 ～

利用者の生活がより良いものになるように、それぞれのやりたいことや、できるようになりたいことを行えるよう、一人ひとりに合わせた訓練を実施できるよう努めた。また退院後の状態に合わせ、徐々に以前のような生活に戻れるよう訓練を実施していった。ユニット職員と協力し集団体操や嚥下体操、立ち上がり訓練など継続して行う事ができた。

一日平均 6～7 名

- ・歩行訓練・・・27 名
- ・起立着席訓練・・・38 名
- ・筋力強化訓練・・・38 名
- ・体操・・・ほぼ全員
- ・関節可動域運動・・・5 名
- ・階段昇降・・・3 名
- ・座りかえ動作訓練・・・6 名
- ・マッサージ・・・5 名
- ・回想、嚥下訓練を目的とした発声や会話、歌・・・ほぼ全員

## 【令和 5 年度の状況・評価】

### ～ 介 護 ～

状況に関しては事業報告の通り。

コロナ禍で外出は、4 月の花見と 1 月の初詣だけだったが、ユニット内で行事を企画し施設内で楽しんでもらえる様に務めた。

年に 1 度の誕生日にはその方の好きな物を作り、皆でお祝いし喜んでもらえた。また、苑の畑で採れた野菜を使い、調理し季節を感じてもらえることはできた。

恒例のあいおい祭り、家族交流会は今年も行えず家族との信頼関係を築くことは難しかったが、制限の中での面会時や遠方の方へは電話で近況報告は行ってきた。

今年度はコロナとインフルエンザの感染者が多数出て蔓延してしまった。

保育園児や小学生の慰問は行え、利用者さんがとても喜ばれた事は良かった。

今年度は 12 名の看取りの方がおられた。職員一人一人がその方に寄り添い最後までその人らしく生活してもらえるように努めた。また、多職種・家族との情報の共有にも努めた。

今年度も毎月の勉強会を勤務時間内に行う事で非常勤職員も参加出来たことは良かった。

今後も他職種と連携をとりながら、入居者により良いケアが出来るように努めていきたい。

## ～ 看護 ～

状況に関しては事業報告の通り。

コロナウィルス感染者、インフルエンザ陽性者もあり、感染対策におわれた。その重要性、正確な手技等を学習し確認する 1 年となった。また職員の陽性者も多く、改めて感染予防の大切さ、介護施設の従事者としての自覚を全員が持つように指導していく難しさを痛感した。様々な疾患を持って入居される利用者への的確に対応し、急変時は速やかな判断が必要となる。日々進化する医療に敏感に反応する事も大切となる。

今後、施設での看取り対応がますます増えると予測される。状態説明や電話連絡の際、相手の表情が分からない中で意図が正確に伝わっているか不安に感じることも多々あった。利用者、家族の思いを大切に、安心していただけるよう努力していく。

## ～ 相談 ～

令和 5 年度、入居については 19 名、退居については年間死亡退居 12 名入院退居 7 名となり 38%の入れかわりがあった。平均介護度 2.23 稼働率は年間 95.9%となり前年の 96.5%を下回った。今後継続して、各部署や外部事業所と連携を図りながら、スムーズな入退居に繋がるよう、取り組みたい。

また現時点の入居者(利用者)、家族が安心して頂けるよう、又、職員の業務がスムーズに対応できるよう、情報提供を各ユニット、看護に確実に言い相談窓口としてサポートに努めていきたい。

## ～ 機能訓練 ～

看護師がリハビリと兼務となり 1 年半以上が経過。看護師も 1 人人数が減り 3 人体制の為、充分なリハビリを提供する事が難しくなった。しかし、看護の中で情報を共有し可動域訓練やマッサージを継続して行ったり、ユニット会議の場で機能訓練についての情報を提供しユニット職員とも連携して継続的なリハビリを行っていく事が出来た。直接関わる機能訓練の 1 日平均人数は減少しているが職員皆が協力して継続したリハビリを提供していきたい。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. コロナも少しずつ落ち着いてきているので、年に数回でも季節を感じてもらえるよう外出や施設内でできる事を考え企画する。また、畑で採れた野菜を使って一緒に調理し食べる楽しみを味わってもらおう。  
コロナも少しずつ落ち着いてきているがまだまだ感染が怖いので、外出は年間を通して 2 回だった。その分施設内でできる事を考え企画した。また、畑で採れた野菜を使って一緒に調理し食べる楽しみを味わってもらうことができた。
2. 施設外研修に参加できないが、リモートでの参加やグループホームと合同の施設内研修を増やし全員が参加出来るようにする。専門職としての質の向上を行い、人材育成・定着に努める。  
施設外研修に参加できないが、リモートでの参加やグループホームと合同の施設内研修を増やした、勤務時間内に行う事により非常勤職員も参加出来た。専門職としての質の向上を行い、人材育成・定着に努めたがまだまだ人員不足である。
3. 家族の面会も少しずつでも緩和され、施設行事に参加してもらえるようにしたい。また、こまめに入居者さんの状況を報告し、ご家族との信頼関係を築いていく。  
家族の面会も少し緩和されたが、施設行事への参加は難しかった。面会時にはこまめに入居者さんの状況を報告し、また遠方に方には電話で報告し家族との信頼関係を築いた。
4. コロナウイルスや他の感染症を職員が持ち込まないよう感染対策の徹底に努める。  
コロナウイルスや他の感染症を職員が持ち込まないよう感染対策の徹底に努めたが、コロナウイルス、インフルエンザが蔓延してしまった。
5. 空床が出た場合は、速やかに入所に繋がられるようケアマネジャーとの連携を図り、稼働率を上げていけるように努める。  
空床が出た場合は、速やかに入所に繋がられるようケアマネジャーとの連携を図り、稼働率を上げていけるように努めた。

## 介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要支援 2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	3	3	5	2.0
要介護 1	20	21	20	21	19	20	20	19	20	22	22	20	20.3
要介護 2	10	8	7	7	7	7	7	9	7	7	7	7	7.5
要介護 3	3	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	5	3.9
要介護 4	7	8	8	7	7	7	6	7	6	6	7	6	6.8
要介護 5	7	6	6	7	7	7	7	7	8	7	7	6	6.8
合 計	50	50	48	49	47	48	48	50	49	51	52	51	49.4
男 性	10	9	9	9	9	10	11	12	12	13	14	15	11.1
女 性	40	41	39	40	38	38	37	38	37	38	38	36	38.3

## 介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	60	62	60	62	62	60	62	60	62	62	58	62	732
要支援 2	30	31	30	31	31	48	62	60	62	76	87	131	679
要介護 1	600	611	600	628	589	573	620	543	609	635	603	593	7,204
要介護 2	294	246	210	217	217	210	217	261	217	187	167	217	2,660
要介護 3	90	124	117	107	119	119	94	120	120	124	116	155	1,405
要介護 4	210	248	240	217	217	217	186	175	175	186	161	142	2,374
要介護 5	190	186	180	217	217	217	217	210	210	217	193	186	2,440
合 計	1,474	1,508	1,437	1,479	1,452	1,444	1,458	1,429	1,455	1,487	1,385	1,486	17,494
月平均延べ利用者数													1,457.8
年 間 稼 働 率													95.9%
平 均 介 護 度													2.23

## グループホーム 笑生苑

### 【事業基本方針】

1. 個人『らしさ』を大切に
2. 家庭的な環境づくり
3. 温かい心と尊厳の心
4. 地域との関わりを大切に
5. 笑って生活する

### 【目的】

1. 共助・・・『出来ない』ことへの支援
2. 共生・・・『談（団）らん』で和の時をもつ
3. 傾聴・・・『ゆっくり、ゆったり』
4. 地域交流・・・『気軽にホームに"おいでませ"』
5. 共働・・・『"信頼関係"の構築』

### 【入居者の状況報告】

入居者・・・4名

退居者・・・5名

男性・・・6名 女性・・・12名 計 18名

平均介護度・・・(右田) 2.6 (佐野) 2.8 (笑生苑全体) 2.73

### 【具体的事業報告】

- ・活動を行う際は、笑生苑の職員だけで行うのではなく、他事業所を巻き込んだ。職員数の確保に繋げ、より多くの入居者様に参加していただく事ができた。
- ・少しずつではあるが、ご家族と外出等ご家族と過ごす時間も増えてきている。玄関先での面会やシーツ類の洗濯物受け渡しの際やご家族同伴の受診時に生活の様子を伝え、ご家族からも生活の中で不安に思われている事、意見を聞くことで信頼関係の構築に努めた。
- ・笑生苑だよりを2か月に1回ご家族に発送をし、施設での活動の様子を伝えている。
- ・新規入居者の受け入れの際は、しっかりと情報収集を行い他職員に周知し寄り添い関わる事で新規入居者が不安無く、施設生活にすこしでも早く馴染んでもらうことが出来た。
- ・介護と認知症に関する知識や専門技術向上”として、感染予防の為、開催出来ない月もあったがケアハウスと合同で施設内勉強会を行った。開催出来ない月は資料のみ配布した。
- ・外部研修（グループホーム連絡会等）には zoom にて参加。
- ・地域と合同で避難訓練（3月の運営推進会議の際に開催）

介護・看護に関する知識や専門技術向上”として、多くの職員が参加できるよう施設内勉強会を勤務時間内ケアハウスと合同で開催した。

- 4月…食中毒・看取りについて
- 5月…食中毒・看取りについて
- 6月…食中毒・看取りについて、認知症について
- 7月…ハラスメント・リスクマネジメントについて
- 8月…ハラスメント・リスクマネジメントについて、身体拘束について（コロナで中止）
- 9月…ハラスメント・リスクマネジメントについて
- 10月…高齢者虐待・身体拘束について、介護技術について
- 11月…高齢者虐待・身体拘束について
- 12月…高齢者虐待・身体拘束について、接遇について
- 1月…認知症・感染症について
- 2月…認知症・感染症について、リスクマネジメントについて
- 3月…認知症・感染症について

● 苑内行事

月		月	
4月	料理レク	10月	料理レク
5月	誕生日会・大平山へ	11月	誕生日会
6月	誕生日会	12月	忘年会・クリスマス会・誕生日会
7月	料理レク	1月	新年会・誕生日会・初詣
8月	納涼祭・誕生日会	2月	節分豆まき・誕生日会
9月	料理レク	3月	誕生日会

**【令和5年度の状況・評価】**

- ・利用者の手洗い・消毒の徹底、手すりや机、椅子など生活内で触れる場所を毎日1日3回消毒を現在も継続している。
- ・職員としっかりコミュニケーションを図り関係を作る事で、相談できる関係性を作ってきた。職員の意見を反映させ、思いを汲み取ることで職員のモチベーションアップにも繋がって行くことが出来た。
- ・地域と合同で避難訓練を運営推進会議の一環として地域と合同での避難訓練を3年ぶりに行う事が出来た。今回は水消火器を使った消火訓練を行った。多くご意見を頂き充実した訓練となった。

- ・新規採用職員の入職で職員一人一人が介護動作・声掛け・関りを見直すいい機会となっている。指導する側の言葉を、指導を受ける側がどう捉えるか、しっかりコミュニケーションをとり、相手の性格等を見極めた上で、その人に合った指導方法を考えていく。
- ・5月にコロナウイルス感染者が1名判明。早急に隔離を行い、翌日に入院治療へ移行した。隔離対応の難しさは感じるが、入院治療ができ以降感染者は出ず終息した。前回の反省を生かす事が出来たことが今回蔓延に繋がらなかった大きな要因だと思われる。

## 【令和5年度目標の達成状況】

<全体>

- ・感染症を持ち込まないように引き続き感染対策を引き続きしっかりと行う。利用者の手洗い・消毒の徹底、手すりや机、椅子など生活内で触れる場所を毎日1日3回消毒を現在も継続している。発熱者は出れば、まずは居室隔離を行い主治医の指示に従っている。

- ・新型コロナウイルスの5類に移行になり、少しずつ外出行事も計画し、楽しみが増える活動をして行く。

ご家族との外出の機会も増えている。施設内行事も、納涼祭の開催、大平山へ外出に行く事が出来た。毎月の料理レク・誕生日会は中止も無く行う事ができた。

- ・今出来ることを考え、その人らしい生活が行え、楽しく充実した日々を送ることが出来るよう関わりを持っていく。

新規入居者の受け入れの際は、しっかりと情報収集を行い他職員に周知し寄り添い関わる事  
新規入居者が不安無く、施設生活にすこしでも早く馴染んでもらうことが出来た。

- ・入居者一人一人の変化を見逃さず、早期発見・対応ができるよう職員の知識・技術の向上を図り、他部署としっかりと連携をとっていき、安心と安全・質の高いサービスが提供できるようにしていく。

介護・看護に関する知識や専門技術向上”として、多くの職員が参加できるよう施設内勉強会を勤務時間内ケアハウスと合同で開催した。

看取りを2名行った。訪問看護や主治医・ご家族としっかりと連携をとり行う事が出来た。

ご家族との話し合いの際には訪問看護にも入ってもらい医療面の話、ご家族の不安の解消など、しっかりと意見交換が出来た。

- ・地域の方との避難訓練を継続して行い、災害時等の協力体制の構築を図っていく。

地域と合同で避難訓練を運営推進会議の一環として地域と合同での避難訓練を3年ぶりに行う事が出来た。今回は水消火器を使った消火訓練を行った。

- ・空床が出た場合は早めに入居を進めていき、短期入所も受け入れていく。

4名の新規入居があったが、早め入居を行う事ができた。ケアマネージャーより短期利用の話も多くあり、空床利用にて受け入れをおこなった。

#### <右田UT>

- ・入居者が楽しく生活できるように、寄り添い尊重し、個別ケアが実践できるように職員1人1人の意識・技術の向上に努める。

新人職員の育成を柱に、現場にて業務内で他職員と連携し介護技術の教育を行ってきた。

新人職員から業務を行う上での疑問点なども積極的に聞かれるようになり、ご利用者とのコミュニケーションも上手に行えるようになってきており成長を感じ取れている。

入居者の方々も大きな入れ替わりもなく、天気の良い日は散歩に出かけ四季の移ろいや外の空気を感じて頂け、散歩が難しい方は馴染みの曲を鑑賞したりと個々に合ったケアを取り組んでおり、楽しみながら過ごされている様子が感じとれている。

#### <佐野UT>

- ・職員の連携を強化する。
- ・入居者の個々のニーズを職員全体で把握、個別ケアにしっかり取り組む。

申し送りノートの活用、また重要事項は口頭での報告やユニット内の会議で話し合いを行い説明、決定を行ってきた。同じユニット内で入居者同士のADLの差が大きく、散歩が行える方は天気の良い日にお誘いし、身体を休めたいと希望される方は休んでもらい、重度の入居者はベッド上でリハビリを行うなど個々の生活リズムに沿ったケアに取り組めたと思う。

今年度、看取りケアを2名行い、医師、看護と情報共有、連携を取り看取りを行った。ご利用者は苦痛なく安らかに最期を迎える事が出来るよう末期には点滴や食事、水分補給などは中止し、痛みや苦しむ様子はほとんどなく緩やかに最期を迎えることができた様子であった。ご家族からは、ここで看取ってもらえてよかったですと有難い言葉を頂くことができ、良い看取りが出来たのではないかと思う。

## 介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4	4	4	4.6
要介護 2	3	4	4	4	4	3	3	3	3	3	2	2	3.2
要介護 3	7	7	7	6	6	7	7	7	7	6	8	8	6.9
要介護 4	2	1	1	1	1	1	1	1	2	1	1	1	1.2
要介護 5	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	1.6
合 計	18	18	18	17	17	18	18	17	18	16	17	17	17.4
男 性	6	6	6	5	5	5	5	5	5	3	4	4	4.9
女 性	12	12	12	12	12	13	13	12	13	13	13	13	12.5

## 介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	150	155	150	155	155	150	155	120	124	124	116	124	1,678
要介護 2	90	124	120	124	124	90	93	90	93	93	58	62	1,161
要介護 3	210	217	210	186	186	210	217	210	217	186	232	248	2,529
要介護 4	60	31	30	31	31	30	31	30	62	31	29	31	427
要介護 5	30	31	30	31	31	30	62	60	62	62	58	62	549
合 計	540	558	540	527	527	510	558	510	558	496	493	527	6,344
月平均延べ入居者数													528.7
年 間 稼 働 率													96.6%
平 均 介 護 度													2.54

# デイサービスセンター たまのや

---

## 【事業基本方針】

利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ち、可能な限り在宅において、有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるように配慮する。

## 【目的】

利用者の自立支援を念頭に置き、日常生活に結びついたリハビリを実施し、在宅生活に於ける楽しみ・生きがいづくり・様々な生活満足度を上げる介護サービスの提供をめざし、住み慣れた地域での在宅生活を継続できるように支援につとめていく。

## 【目的】

日常生活に結びついたリハビリを実施し、在宅生活に於ける楽しみ・生きがいづくり・様々な生活満足度を上げる介護サービスの提供をめざし、住み慣れた地域での在宅生活を継続できるように支援につとめていく。

## 【具体的事業報告】

- (1) パワーリハビリを継続実施し、トレーニング内容の充実を図った。

日常生活の中で必要な動作の維持・向上できる運動プログラムの構築と提供を実施した。また、利用者の自立心を大切にしながら、機能維持改善のための機能訓練も実施した。

- ・パワーリハビリ、個別機能訓練の実施。健康運動実践指導者によるエビデンスに基づく機能訓練の実施。ストレッチ体操、上肢・手指運動、嚥下体操、屋内外歩行の実施。
- ・柔道整復師・理学療法士の各専門分野においてアプローチできた。
- ・自立支援を念頭に在宅生活の継続を考えた生活リハビリの実施。
- ・InBody を活用し身体状況の見える化を実現し、機能訓練のモチベーション向上が図れた。
- ・メドマーを導入し、下肢の浮腫、疲労感の軽減にアプローチし、立位、歩行機能の維持向上に努めている。

- (2) デイサービスの特徴でもある、グループダイナミクスを活かしたレクリエーション活動など、利用者が楽しめるように利用者のニーズに合ったプログラムの構築に取り組んだ。また、楽しみながら認知症予防プログラムの充実を図った。

- ・「たまのや喫茶」2ヶ月に1回 陶芸教室を実施  
(お皿、コップ、花瓶、季節の飾り物などご自分で作りたい物を作成)。

- ・ 作品作成（空き缶風車、季節の壁画・クラフトバンドでの籠作り）
  - ・ # 利用者の生活を守る の合言葉のもと、季節感を感じる壁画作りの実施
  - ・ 誕生月の利用者に個別の誕生会を実施し集団内での個別化を図った。  
（誕生日メッセージと手作りの記念品の贈呈）。
  - ・ 頭の体操などの認知症予防プログラムの実施。（プリントや絵合わせなど）
- (3) マッサージ・ウォーターマッサージの実施や安全で安楽な入浴サービスの提供を継続して行なった。
- ・ 柔道整復師によるマッサージ、ウォーターマッサージ・メドマーの実施。
  - ・ 安全で安心のできる入浴サービスの提供。
  - ・ 足湯や入浴時の足浴を含めたフットケアの実施。

#### (4) 行事実施状況

月	行事内容	月	行事内容
4月	桜見物（防府天満宮）	10月	運動会
5月	つつじ見物（大平山）	11月	紅葉見物（瑠璃光寺、毛利邸）
6月	映画鑑賞	12月	クリスマス会
7月	そうめん流し	1月	初詣（三社参り）「中止」
8月	夏祭り	2月	節分
9月	敬老会	3月	ひなまつり

### 【令和5年度の状況・評価】

- ・ 専門職集団として、質の高いサービスを提供するために、介護福祉士、社会福祉士の資格試験への挑戦を勧めた。
- ・ ホール内の飾り物、様々なイベントを通じて「意図的な非日常的な空間作り」サプライズ感を味わっていただくことに努めた。
- ・ 居宅介護支援事業所、地域包括支援センター、病院の地域連携室などの関係機関を訪問し地域のニーズや課題の把握に努めた。
- ・ 誠英高校、次世代の担い手の育成の為、専門職としての講義を行った。
- ・ 健康教室への年間7地域に講師派遣を行い、地域との顔の見える関係づくりと並行して、地域の課題を解決する手立てを模索し、地域に根ざした社会福祉法人となれるよう「ソーシャルデザイン」を持続的に実践した。
- ・ 在宅サービスとして、地域課題把握のため、地域の行事へ参加し住民の生の声を聴いた。
- ・ (株)島津製作所、防府市、山口市、山口大学附属病院、三田尻病院、当法人と産官連携し「認知症予防」という「社会課題の解決」に向けたプロジェクトをスタートし、山口県相互研修会での発表し、中国大会、日本介護経営研究学会にてプレゼンを行った。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 鳥津製作所との認知症予防測定機器を駆使し、認知症予防、機能訓練、生活援助を基盤に利用者の認知症予防、リハビリ意欲向上プロジェクトを推進する。また、山口県老人福祉施設協議会相互研修でプレゼンし全国大会出場を目指す。
  - ・山口県老人福祉施設協議会相互研修にては発表し、岡山県での中国大会に出場。その後、日本介護経営学会に招かれ全国セミナー（東京都 大塚商会本社ビル）にてプレゼンし好評を得た。
2. 防府市内の地域福祉の拠点となれるよう、地域との顔の見える関係作りを実施する。
  - ・地域の健康教室にて講師派遣を行い年間 41 回の講演や実技指導、体操指導などを実施した。
  - ・年間 4 回防府市内 2 事業所の放課後デイより依頼をいただき、障がいを持つ子どもたちの運動教室を実施した。（つぐみ・フィールド）共生社会の第一歩となればよいと考える。
  - ・ケアマネ事業所に頻回に訪問を行い情報交換に努めた。
3. 稼働率向上のため、居宅介護支援事業所の定期訪問を行い、市内のみならず「秋穂・小鯖・徳地」地域まで事業展開を行う。
  - ・小鯖地域より 2 名 秋穂地域より 3 名の新規利用をいただいた。秋穂地域よりはご好評いただき鑄銭司、陶からも新規利用につながっている。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	6	5	6	6	6	7	7	7	7	6	7	7	77
要支援 1	6	6	5	6	6	3	4	5	5	3	4	5	58
要支援 2	18	19	21	20	20	17	17	17	17	17	16	15	214
小 計	30	30	32	32	32	27	28	29	29	26	27	27	349
要介護 1	31	29	25	26	23	23	24	25	27	25	26	29	313
要介護 2	17	18	17	17	18	13	15	13	15	11	9	9	172
要介護 3	8	8	8	8	8	7	6	6	6	7	7	7	86
要介護 4	8	8	8	9	9	8	8	7	6	7	7	7	92
要介護 5	6	6	7	6	5	6	5	6	6	5	6	6	70
小 計	70	69	65	66	63	57	58	57	60	55	55	58	733
実費利用	13	15	14	12	9	9	11	15	14	12	11	11	146
合 計	113	114	111	110	104	93	97	101	103	93	93	96	1,228

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	21	25	25	23	30	32	28	33	28	24	29	26	324
要支援 1	32	35	29	31	36	12	17	22	23	13	14	18	282
要支援 2	133	154	152	149	146	109	127	141	122	122	106	115	1,576
小 計	186	214	206	203	212	153	172	196	173	159	149	159	2,182
要介護 1	293	286	251	244	223	178	206	219	211	191	194	247	2,743
要介護 2	196	220	188	185	160	136	136	126	157	83	80	98	1,765
要介護 3	73	90	75	84	66	49	69	65	64	69	51	59	814
要介護 4	100	113	105	115	110	87	110	86	63	56	97	59	1,101
要介護 5	71	79	82	58	66	47	65	71	73	59	50	81	802
小 計	733	788	701	686	625	497	586	567	568	458	472	544	7,225
実費利用	50	60	47	46	30	35	48	63	51	49	36	54	569
合 計	969	1,062	954	935	867	685	806	826	792	666	657	757	9,976
												月平均延べ利用者数	831.3
												年間稼働率	61.5%
												平均介護度	1.44

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	1	2	0	1	0	1	3	1	6	1	2	2	1.7
体験利用	3	2	5	0	1	2	5	4	8	4	2	1	3.1

# ヘルパーステーションスマイルネット防府

---

## 【事業基本方針】

理念「信頼・誠実」をモットーに自立に向けた援助を行い状況変化に対応できるように、常に利用者に対し人生の先輩に学ぶ姿勢を持ち、寄り添い、同じ時間を共有させて頂く気持ちで援助する。

## 【目的】

1. 自立支援に向けた援助を行い、利用者の状況に対応できるように全力を尽くす。
2. 常に、利用者に対し人生の先輩に学ぶ姿勢を持ち、利用者に寄り添い同じ時間を共有させて頂く気持ちで接する。

## 【具体的事業報告】

令和6年のカレンダーの作成・配布  
利用者一人一人に誕生日プレゼント（タオル）

## 【令和5年度の状況・評価】

- ・コロナで研修ができなかったが、メールなどでヘルパー同志のコミュニケーションはとれた。
- ・どんな困難にも満足していただける支援をし、登録ヘルパーの充実にも力を入れた。
- ・コロナ対策にも気を付けた。

## 介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
要支援 1	2	2	3	3	3	3	3	3	3	2	3	3	33
要支援 2	6	6	5	4	4	4	3	2	3	2	4	4	47
小 計	8	8	8	7	7	7	7	5	6	4	7	7	81
要介護 1	21	21	21	21	21	22	23	21	21	19	19	17	247
要介護 2	4	7	7	7	7	5	5	6	6	7	6	5	72
要介護 3	3	3	4	3	2	3	2	2	2	3	3	3	33
要介護 4	4	4	6	4	6	5	5	5	6	6	6	5	62
要介護 5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
小 計	33	36	39	36	37	36	36	35	36	36	35	31	426
実費利用者	2	1	3	4	2	5	6	2	4	3	5	4	41
障害者総合支援	6	5	5	5	4	5	5	6	5	5	4	4	59
移動支援	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
合 計	50	51	56	53	51	54	55	49	52	49	52	47	619

## 介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5
要支援 1	16	18	19	21	22	19	19	20	18	17	21	21	231
要支援 2	48	52	33	30	29	25	23	22	22	22	37	38	381
小 計	64	70	52	51	51	44	47	42	40	39	58	59	617
要介護 1	230	201	201	185	180	207	210	192	181	176	161	200	2,324
要介護 2	65	112	105	103	80	63	81	83	67	78	66	64	967
要介護 3	73	82	84	77	52	51	56	54	53	51	49	60	742
要介護 4	143	137	144	131	161	155	160	152	154	157	141	131	1,766
要介護 5	22	22	28	16	22	28	26	22	26	22	29	4	267
小 計	533	554	562	512	495	504	533	503	481	484	446	459	6,066
実費利用者	7	6	18	15	9	15	15	8	14	14	25	18	164
障害者総合支援	44	38	36	32	26	35	36	37	33	30	25	28	400
移動支援	4	3	3	1	2	3	3	3	4	3	2	3	34
合 計	652	671	671	611	583	601	634	593	572	570	556	567	7,281
1日あたりの訪問件数	21.7	21.6	22.4	19.7	18.8	20.0	20.5	19.8	18.5	18.4	19.9	18.3	
	月平均延べ利用件数												606.8
	平均介護度												1.51

# 訪問看護ステーション スマイルネット防府

---

## 【事業基本方針】

1. 利用者様の心身機能の維持向上を目指し、同時に安心・信頼される看護の提供を行い、その人らしいQOLが営めるよう援助する。
2. 主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者及び家族に対し必要とされる看護を提供する。
3. 法人内のグループホーム等及び各施設スタッフとの連携を通し入居者様の健康管理のサポートを行う。また医療機関・居宅介護事業者等との連携を密にし、信頼される訪問看護ステーションを目指す。

## 【目的】

1. 在宅利用者様や施設入居者様に寄り添い在宅生活が安心・安全に送れるよう援助する。
2. 在宅での看取りを視野に入れ、利用者・家族ともに穏やかな終末期を迎えられるよう援助する。
3. 利用者・家族に必要とされる看護を提供し、安心・信頼される関係を構築する。

## 【具体的事業報告】

1. 病状や体調の変化に注意し、悪化の防止・健康の維持増進を目標とする看護ケアを提供し異常の早期発見に努め、医療機関（主治医）との連携を密にし、適時病状報告を行い、状態変化時には早急な対応を心がけた
2. 主治医・居宅支援事業者・他サービス提供事業者との連携を図り、利用者・家族にとって最善の看護が提供できるように努めた。
3. 在宅（グループホーム含む）で終末期を迎えられる利用者に対し、本人・家族を含め安らかなその人らしい終末期を過ごすことが出来るよう関わった。
4. 医療連携を基にグループホーム・ケアハウス等法人内施設との連携を図り、入居者の健康状態の確認・病状把握・異常早期発見に努め、入居者が穏やかに安心して施設で生活できるようにサポートを行う。またオンコール～緊急時の対応（訪問）電話での相談・助言、医療保険（特別指示）での訪問を行った。
5. 理学療法士の入職により、訪問看護による訪問リハビリテーションを始めることができ新たな事業展開を開始することができた。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

- ・他機関との連携（横のつながり）が広がり、丁寧に対応をしていくことで信頼を得て新規の依頼が増えた。各居宅の他のケアマネジャー（関わっていなかった）からの依頼もくるようになった。
- ・介護保険の依頼の件数を増やすことが出来た。
- ・利用者及び家族に対し身体的・精神的援助を提供することが出来た。
- ・コロナに対しての予防や施設での発生時の対応・協力が出来た。
- ・提携する GH との連携もよくきちんと対応することが出来た。
- ・施設にて本人、家族の望む看取りを行うことが出来た。
- ・地域交流の場に積極的に参加出来た。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	5	5	5	5	6	6	6	7	7	5	6	5	68.0
要支援 2	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2.0
要介護 1	8	9	8	7	6	8	9	10	9	9	10	12	105.0
要介護 2	4	3	3	3	3	5	4	4	3	2	2	2	38.0
要介護 3	2	3	4	4	4	3	4	3	3	3	2	2	37.0
要介護 4	3	4	4	4	4	4	4	3	3	4	3	3	43.0
要介護 5	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	3	2	17.0
医療(後期)	7	5	3	6	16	11	5	6	13	11	7	7	97.0
医療(国保)	2	1	1	1	1	2	1	1	1	2	1	1	15.0
医療(社保)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合計	33	32	29	31	41	41	35	35	40	37	34	34	422.0

介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	20	18	18	17	20	21	25	29	23	21	24	20	256
要支援 2	0	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	8
要介護 1	44	53	43	37	34	38	40	48	41	32	43	46	499
要介護 2	29	32	28	28	25	29	25	23	22	12	14	11	278
要介護 3	8	16	16	23	27	17	19	22	20	19	16	12	215
要介護 4	17	20	26	24	20	17	24	16	15	16	8	15	218
要介護 5	7	9	6	4	6	4	5	5	3	5	14	12	80
医療(後期)	158	96	49	113	339	216	100	96	204	234	71	112	1,788
医療(国保)	10	4	5	4	4	14	8	8	6	14	9	8	94
医療(社保)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	293	248	191	250	475	360	250	247	334	353	199	236	3,436
1日あたりの訪問件数	9.8	8.0	6.4	8.1	15.3	12.0	8.1	8.2	10.8	11.4	7.1	7.6	
										月平均訪問件数(介護)			129.5
										月平均訪問件数(医療)			156.8

法人内事業所との連携～医療特別指示による訪問件数 (令和3年4月～令和4年3月)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
合計件数	135	81	42	84	282	165	96	91	161	207	34	89	1467
ケアハウス(点滴)	66	24	0	0	146	51	25	12	54	142	0	9	529
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
笑生苑(点滴)	27	0	0	0	0	0	0	0	18	0	0	0	45
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	6	19	29	7	15	76
より愛(点滴)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(処置)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自由の杜(点滴)	0	0	0	24	69	21	0	0	0	0	0	24	138
(処置)	0	0	0	0	0	0	25	30	28	0	0	0	83
Filage(点滴)	0	15	0	18	24	36	0	0	0	0	10	13	116
(処置)	42	42	42	42	42	57	46	42	38	36	17	28	474
徳地(点滴)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(処置)	0	0	0	0	1	0	0	1	4	0	0	0	6

## 特別養護老人ホーム 自由の杜

### 【事業基本方針】

入居者一人ひとりの思いを大切にし、毎日の生活が笑顔あふれる暮らしになるよう支援する。  
明るく家庭的な雰囲気を作り入居者にとって暮らしの継続となるよう支援する。

入居者一人ひとりの尊厳を守り、生活の継続を支援する。

入居者一人ひとりが穏やかで楽しく笑いが堪えない日々の生活を送れるように支援する。

法人理念『人の為に走れ』・施設理念『笑顔あふれる暮らし～あなたに会えてよかった～』

ユニットケア理念『暮らしの継続』を行動指針とし常に入居者とともに邁進する。

### 【目的】

入居者一人ひとりの特色を理解し、今までの暮らし・習慣を継続しつつ、施設サービス計画書を基にその人らしい生活が実現できるように援助する。

思いを汲み取り笑顔を引き出して、その人らしい生活が実現できるよう支援する。

家族の思いにも耳を傾け、連携していくことで笑顔あふれる毎日を過ごすよう支援する。

入居者一人ひとり、身体的・精神的状態が違ふ中で、その人にあったライフスタイルを見極め、適切な介助・支援を行っていく。そのために職員の技術、意識の向上を目指す。

### 【入居者の状況報告】

#### 1. 入・退居状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	入居	退居	死亡退居
男性	3名	1名	—
女性	7名	8名	7名
合計	10名	9名	7名

#### 2. 介護度別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均介護度：4.25

	介護度 1	介護度 2	介護度 3	介護度 4	介護度 5	合計
男性	—	—	—	3名	2名	5名
女性	—	—	5名	8名	10名	23名
合計	—	—	5名	11名	12名	28名

### 3. 年齢別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均年齢：89.3歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	1名	4名	－	5名
女性	－	－	1名	8名	14名	23名
合計	－	－	2名	12名	14名	28名

#### 【具体的事業報告】

施設においても自宅での生活を継続できる仕組みづくりを行い、職員の仕事に合わせた日課に入居者の暮らしをあてはめるのではなく、入居者各人がどのような暮らしを望んでいるのか、その暮らしを理解した上でケアを実践した。

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合であっても、入居者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築した。

#### 【令和5年度目標の達成状況】

##### 1. 介護部門

- ・入居者、職員が共に穏やかに過ごせる空間作りに努めた。
- ・個性を大切にし、笑顔で楽しく自分らしく穏やかに過ごせるように努めた。
- ・入居者が日々思い出になる毎日が送れるよう支援した。

##### 2. 医務部門

- ・入居者一人ひとりのニーズに応じたケアが多職種連携により継続できるよう支援した。

##### 3. 栄養部門

- ・入居者個々人の状況に合った食事を提供した。

##### 4. 歯科部門

- ・入居者の状態を把握し適切な口腔ケアを提供した。

##### 5. 生活相談部門

- ・年間稼働率 98%以上を目標としたが、年度を通して安定した稼働率を確保することができず、目標達成には至らなかった。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.2
要介護 3	5	5	5	5	5	6	6	6	6	6	6	6	5.6
要介護 4	9	9	12	9	9	9	9	11	10	10	9	10	9.7
要介護 5	13	12	10	13	14	12	12	12	13	13	13	12	12.4
合計	28	27	27	27	28	27	27	29	29	29	28	28	27.8
男性	3	3	3	3	3	2	2	3	5	5	5	5	3.5
女性	25	24	24	24	25	25	25	26	24	24	23	23	24.3

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	30	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37
要介護 3	150	155	150	155	155	180	186	164	186	186	174	174	2,015
要介護 4	270	279	353	252	220	258	279	312	291	309	261	290	3,374
要介護 5	304	372	300	403	382	360	372	334	403	403	366	372	4,371
合計	754	813	803	810	757	798	837	810	880	898	801	836	9,797
月平均延べ利用者数													816.4
年間稼働率													92.6%
平均介護度													4.23

# ショートステイ 自由の杜

## 【事業基本方針】

「在宅」という基盤を基に、ご本人・ご家族の意向に沿ったサービスを総合的に提供することで1人の人として社会生活を営むことができるように支援を目指す。

地域に根差し、密着したサービス拠点として、地域や家庭との結びつきを重視し安心して生活できるよう支援する。

## 【目的】

利用者個人に寄り添い、入居された時と同じ状態・状況で帰って頂けるように支援する。

居宅での生活そのままに利用中の生活との連続性に配慮し、家庭的な雰囲気の中で楽しく過ごして頂けるように支援する。

## 【具体的事業報告】

利用者の状態に応じて、一貫したケアを行った。

1人ひとりのアセスメントをし、統一したケアを行った。

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築した。

## 【令和5年度目標の達成状況】

### 1. 介護部門

利用者の立場になって考え、明るく笑顔になれる環境を築く

- ・利用者の立場になって考え、明るく笑顔になれる環境づくりに努めた。

### 2. 医務部門

利用者一人ひとりのニーズに応じたケアが多職種連携により継続できるよう支援する。

- ・利用者一人ひとりのニーズに応じたケアが多職種連携により継続できるよう支援した。

### 3. 栄養部門

利用者個々人の状況に合った食事を提供する。

- ・利用者状況の把握に努め、個々人の状況に合った食事の提供を行った。

### 4. 生活相談部門

年間稼働率90%以上を確保し事業運営の安定化を図る。

- ・年間稼働率87.5%という結果で終わり、目標とした90%以上の確保には至らなかった。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	1			2	1			1	1	1			1.2
要支援 2		1	2	1	1		1	3	4	1			1.8
要介護 1	9	9	11	7	12	12	11	8	9	8	5	8	9.1
要介護 2	9	9	8	10	12	12	10	10	9	10	8	10	9.8
要介護 3	5	9	5	10	13	7	9	7	6	8	10	9	8.2
要介護 4	7	4	1	1	1	5	5	3	4	3	4	4	3.5
要介護 5	1	4	1			1	1	1	1	1	1	2	1.4
合計	32	36	28	31	40	37	37	33	34	32	28	33	33.4
男性	12	7	9	10	12	7	9	9	11	9	6	11	9.3
女性	20	29	19	21	28	30	28	24	23	23	22	22	24.1

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	3			1	15			4	4	10			37
要支援 2		5	35	31	6		2	16	15	5			115
要介護 1	78	91	92	94	82	87	89	70	47	76	41	56	903
要介護 2	54	63	41	64	88	74	43	43	50	65	68	36	689
要介護 3	46	79	47	127	121	73	114	88	83	89	77	113	1,057
要介護 4	50	37	7	7	7	26	22	16	25	17	40	28	282
要介護 5	7	23	6			12	3	3	3	4	17	40	118
合計	238	298	228	324	319	272	273	240	227	266	243	273	3,201
月平均延べ利用者数													266.8
年間稼働率													87.7%
平均介護度													2.25

# グループホーム 自由の杜

## 【事業基本方針】

### 運営の方針

同じ屋根の下、

1. 喜 … 共に喜び
2. 怒 … たまには怒ったり
3. 哀 … 哀しいときには傍に寄り添い
4. 楽 … 毎日楽しく笑いあえるような

そんな『あたりまえ』の生活が感じられるように支援する。

私たち介護スタッフも自分の家族を入居させたい、そんな「家創り」を目指していく。

### 【目的】

入居者・ご家族・スタッフで「慣れ親しんだ関係」を創り上げ、「思ひ出創り」を積み重ねる。

### 【入居者の状況報告】

#### 1. 入・退居状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	入居	退居
男性	－	1名
女性	2名	1名
合計	2名	2名

#### 2. 介護度別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均介護度：3.67

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	1名	－	－	1名	2名
女性	－	1名	2名	2名	2名	7名
合計	－	2名	2名	2名	3名	9名

#### 3. 年齢別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均年齢：88.6歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	－	1名	1名	2名
女性	－	－	－	5名	2名	7名
合計	－	－	－	6名	3名	9名

## 【具体的事業報告】

1. 利用者一人ひとりと向き合い、思い・夢・希望を踏まえ、それぞれに合った関わり方を考えながら、その人らしいプランでチームケアを行った。また、利用者のアセスメントを通して、強みの発見を行い、プライドを保って生活して頂けるよう支援した。
2. 質の高い介護を提供できるように、職員一人ひとりのスキルアップや得意分野を発揮できる「チームの輪」を大切にし、やりがいのもてる職場づくりを行った。
3. 医療との連携をスムーズに保ち、入居者の日々の変化を見逃さず、危険を未然に防ぐ早期発見に努め、予測と予防をふまえた介護を実施した。
4. 施設行事には「地域の方たちが参加」、地域行事には「利用者の方たちが参加」でき、顔なじみの関係をつくりながら、「いつでも来てください」と言えるホームであるようにした。
5. 季節を感じる外出行事やホーム行事を毎月企画、提供しながら、充実した笑顔あふれる毎日を感じていただいた。(喜)
6. 共同生活を送る中で、お互いがケンカになりそうになっても、直ぐに和める顔なじみの関係・環境を整えた。(怒)
7. 時には寂しい気持ちや切ない気持ちになっても、その心に寄り添った。(哀)
8. 利用者・職員・家族と会話を多く持ち、一緒に思い出をたくさん創っていただきながら、温かな輪を築いた。(喜、楽)
9. 新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築した。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

- ・年間稼働率 98%以上を確保し事業運営の安定化を図る。

短期利用を含め、年間稼働率は目標の 98%以上あり、年度を通して安定した稼働率を確保することができた。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	2	2	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.7
要介護 2	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.7
要介護 3	3	3	4	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2.7
要介護 4	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	1.9
要介護 5	1	1	1	2	2	2	2	3	3	3	3	3	2.2
合 計	9	9	10	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9.1
男 性	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.3
女 性	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	6.8

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	60	62	60	62	0	0	0	0	0	0	0	0	244
要介護 2	30	31	30	31	62	60	62	60	62	62	58	62	610
要介護 3	90	93	83	93	87	38	68	60	62	62	58	62	856
要介護 4	60	62	60	31	62	60	62	60	62	62	58	62	701
要介護 5	30	31	30	62	62	60	62	90	93	93	87	93	793
合 計	270	279	263	279	273	218	254	270	279	279	261	279	3,204
月平均延べ入居者数													267.0
年 間 稼 働 率													97.5%
平 均 介 護 度													3.36

# 特別養護老人ホーム Filage 開出

## 【事業基本方針】

1. 入居者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、居宅における生活への復帰を念頭において、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援することを目指すものとする。
2. 地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、県・市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、その他の介護保険施設、保健医療サービス、又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努めるものとする。

## 【目的】

入居者一人ひとりの個性を尊重するため、施設の居室（個室）を10人程度のグループに分け、それぞれを一つのユニットとし、ユニットごとに食事・入浴・施設内の行事などの日常生活を送り少人数の家庭的な雰囲気の中で生活を共にしながら個別にケアすることを目的とした。

## 【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	入居	退居	死亡退居
男性	2名	－	－
女性	5名	8名	5名
合計	7名	8名	5名

2. 介護度別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均介護度：4.18

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	－	1名	2名	2名	5名
女性	－	1名	5名	6名	11名	23名
合計	－	1名	6名	8名	13名	28名

3. 年齢別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均年齢：87.7歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	1名	1名	1名	2名	3名
女性	－	－	4名	5名	14名	26名
合計	－	1名	5名	6名	16名	28名

## 【具体的事業報告】

施設においても自宅での生活を継続できる仕組みづくりを行い、職員の仕事に合わせた日課に入居者の暮らしをあてはめるのではなく、入居者各人がどのような暮らしを望んでいるのか、その暮らしを理解した上でケアを実践した。

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合であっても、入居者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築した。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

### 1. 介護部門

- ・職員間の連携を円滑に多職種連携で適切なケアを提供した。
- ・心に寄り添い心を考えたケアを実践し、自宅の様な温かい雰囲気ユニットを築いた。
- ・入居者や職員の掲げた目標に全員で一歩ずつ歩み、ケアの統一感と共有を図った。

### 2. 医務部門

- ・多職種で情報共有しその人らしいケアの提供を図った。

### 3. 栄養部門

- ・安心、安全な食事提供を継続し、口から美味しく食べ続けるように支援した。

### 4. 生活相談部門

- ・年間稼働率 97.4%という結果で終わり、目標とした 98%以上の確保には至らなかった。

特別養護老人ホーム Filage 開出

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 3	5	5	5	6	6	6	6	8	8	7	6	5	6.1
要介護 4	8	9	11	11	10	9	9	8	8	7	7	7	8.7
要介護 5	15	14	12	11	12	13	13	12	12	14	15	16	13.3
合計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29.0
男性	3	3	3	4	4	4	4	4	4	4	5	5	3.9
女性	26	26	26	25	25	25	25	25	25	25	24	24	25.1

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
要介護 3	147	149	150	186	186	180	186	154	209	186	174	155	2,062
要介護 4	240	265	308	310	279	240	248	213	217	217	203	217	2,957
要介護 5	431	427	340	372	403	402	403	420	424	434	408	488	4,952
合計	848	872	828	899	899	852	868	817	881	868	814	891	10,337
月平均延べ利用者数													861.4
年間稼働率													97.7%
平均介護度													4.18

# ショートステイ Filage 開出

## 【事業基本方針】

1. 利用者の心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限りその居宅において、その有する能力に応じて、自律した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身機能の維持並びに利用者家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
2. 要支援、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症の状況等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を適切に行うこととする。
3. 相当期間以上にわたり継続して利用する利用者については、（介護予防）短期入所生活介護計画を作成し、提供するサービス及び機能訓練等の目標を設定し、計画的に行うこととする。
4. 地域との結びつきを重視して県・市・居宅介護支援事業者・その他の居宅サービス事業者、そして保健・医療サービス及び福祉サービスを提供する者との連携に努めるものとする。

## 【目的】

社会的孤立感の解消、心身機能の維持・向上を図ると共に、家族の身体的精神的負担を軽減することを目的とした。

## 【具体的事業報告】

特別養護老人ホームとの一体経営の利点を活かし、それに準じた介護サービスを提供していくと共に、関係法令及び契約に則った介護サービスの提供のみならず、利用者の満足度向上のため、より付加価値の高いサービスの提供に努めた。

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築した。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 介護部門
  - ・利用者一人ひとりのニーズや ADL を把握、多職種連携を図り適切な支援を行った。
2. 医務部門
  - ・多職種で情報共有しその人らしいケアの提供を図った。
3. 栄養部門
  - ・安心、安全な食事提供を継続し、口から美味しく食べ続けられるように支援した。
4. 生活相談部門
  - ・目標の年間稼働率 90%以上を確保でき、事業運営の安定化が図れた。

## 介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	1	0	0	0	1	2	1	1	1	1	1	0	0.8
要支援 2	0	0	2	1	0	1	1	2	1	1	1	1	0.9
要介護 1	7	8	10	7	10	8	10	10	11	9	10	8	9.0
要介護 2	12	12	11	6	8	10	10	14	11	14	17	13	11.5
要介護 3	10	10	9	7	8	5	6	5	6	8	5	6	7.1
要介護 4	6	5	7	7	9	8	7	8	6	5	8	10	7.2
要介護 5	1	2	2	3	5	4	2	2	4	2	2	2	2.6
合計	37	37	41	31	41	38	37	42	40	40	44	40	39.0
男性	12	12	10	7	15	12	12	11	9	10	11	8	10.8
女性	25	25	31	24	26	26	25	31	31	31	33	32	28.3

## 介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	5	0	0	0	1	4	2	2	2	2	2	0	20
要支援 2	0	0	24	8	0	3	21	7	6	5	4	1	79
要介護 1	48	67	52	80	75	80	110	71	69	71	43	33	799
要介護 2	65	100	46	38	37	48	55	81	63	109	128	93	863
要介護 3	122	91	69	51	80	69	39	24	36	37	19	34	671
要介護 4	35	37	42	48	48	49	46	59	59	52	82	60	617
要介護 5	16	23	21	50	58	21	23	21	49	16	21	27	346
合計	291	318	254	275	299	274	296	265	284	292	299	248	3,395
月平均延べ利用者数													282.9

# グループホーム Filage 開出

## 【事業基本方針】

1. 認知症によって自律した生活が困難になった要支援・要介護状態の利用者に対して、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、心身の特性を踏まえ、入居者がその有する能力に応じ自律した日常生活を営むことができるよう、食事・入浴・排泄等の介護その他日常生活上の世話及び機能訓練等必要な援助を行う。
2. 入居者の認知症状の緩和や悪化の防止に資するよう、その目標を設定し、計画的に行う。
3. 入居者一人ひとりの人格を尊重し、入居者がそれぞれの役割を持って家庭的な環境の下で日常生活を送ることができるよう配慮して支援する。
4. 市・地域包括支援センター・居宅介護支援事業者、地域の保健・医療・福祉サービスとの綿密な連携を図り、総合的なサービスの提供に努めるものとする。

## 【目的】

“楽しい”運動をもとに、身体造り

“笑顔の”会話をもとに、心の安らぎを

“おいしい”食事をもとに、幸せな1日を

そして、寝る前に「今日は楽しかった・・・」と感じてもらえる

そんな“あたりまえな”暮らしを行えるように支援した。

今しかできない事、今だからできることを共に行った。

## 【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	入居	退居
男性	1名	1名
女性	3名	3名
合計	4名	4名

2. 介護度別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均介護度：3.39

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	－	1名	－	2名	－	3名
女性	1名	1名	7名	3名	3名	15名
合計	1名	2名	7名	5名	3名	18名

### 3. 年齢別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均年齢：92.1歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	－	－	1名	2名	－	3名
女性	－	－	－	3名	12名	15名
合計	－	－	1名	5名	12名	18名

#### 【具体的事業報告】

個々の好み、やりがいを支援し存在感のある毎日を過ごして頂いた。

入居者だけでなく家族との信頼関係も構築し、ぬくもりのある環境で毎日を過ごして頂いた。

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合であっても、入居者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築した。

#### 【令和5年度目標の達成状況】

- ・入居者一人ひとりのアセスメントを強化し、その人に合ったケアの提供を行った。
- ・各種ツールを活用しコミュニケーションの充実化を図り、職員間の連携強化に努めた。
- ・目標の年間稼働率98%以上を確保でき、事業運営の安定化が図れた。

## 介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1.0
要介護 2	4	4	5	5	5	4	3	3	2	2	1	2	3.3
要介護 3	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7.5
要介護 4	3	4	3	2	2	3	4	4	5	5	5	5	3.8
要介護 5	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	4	3	2.6
合計	18	19	19	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18.2
男 性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
女 性	15	16	16	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15.2

## 介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	30	31	30	31	31	15	31	30	31	31	29	31	351
要介護 2	120	124	146	155	155	120	93	90	62	62	29	62	1,218
要介護 3	210	199	211	248	248	240	217	210	217	217	203	217	2,637
要介護 4	90	107	78	62	62	90	124	120	155	155	145	155	1,343
要介護 5	60	62	60	62	62	60	93	90	93	93	114	93	942
合計	510	523	525	558	558	525	558	540	558	558	520	558	6,491
月平均延べ入居者数													540.9
年間稼働率													98.8%
平均介護度													3.20

# デイサービスセンター Filage 開出

## 【事業基本方針】

1. 利用者がお世話を受ける受動的な存在におさまらず、各自が役割を持ち、自らの様々な能力や残存機能を発揮し、その存在意義を見出せるように支援を実施した。
2. 常に利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立ち、公正中立に努めた。
3. 利用者の住みやすい地域での暮らしを支えるために、医療機関や他の介護事業者、地域の住民等と連携し、利用者を支える地域連携の拠点としての機能を展開した。

## 【目的】

利用者が可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、必要な日常生活のお世話及び機能訓練を行うことにより、利用者の社会的孤立感の解消及び心身の機能の維持並びに利用者の家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る事を目的とする。

## 【具体的事業報告】

運動トレーニングと機能トレーニングを組み合わせ、利用者の身体機能の維持だけでなく、向上を目指すトレーニングを実施するとともに、日常生活に直結した生活リハビリも実施し、在宅生活を継続できるよう支援した。また身体的トレーニングだけでなく、物理療法等を用いて身体に加え精神的な癒しやリフレッシュを図った。

余暇活動については、活動内容の選択肢を増やし、個々の意志を尊重したレクリエーションや趣味活動の充実を図った。

新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生した場合であっても、利用者に必要なサービスが安定的・継続的に提供される体制を構築した。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 職員間の連携、コミュニケーションの向上に努めた。
2. 接遇力の向上に努め、利用者への声かけや関わりの改善を図った。
3. 現状の業務内容を把握し、効率のかつ効果的な運営を実践した。
4. 年間稼働率 80%以上（総合事業含）の目標は達しなかったが、年間を通して安定した収入を確保することができた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	1	2	2	3	2	1	1	2	2	2	2	2	22
要支援 1	9	9	9	8	9	8	8	9	9	7	7	6	98
要支援 2	9	8	9	9	8	8	8	8	7	7	7	7	95
小 計	19	19	20	20	19	17	17	19	18	16	16	15	215
要介護 1	31	35	37	38	36	37	39	41	39	37	37	39	446
要介護 2	22	20	25	25	22	22	24	26	27	26	25	24	288
要介護 3	9	8	8	6	7	6	9	10	10	10	9	6	98
要介護 4	6	7	7	8	8	7	8	8	8	8	6	6	87
要介護 5	1	0	1	1	1	1	2	1	2	3	2	3	18
小 計	69	70	78	78	74	73	82	86	86	84	79	78	937
実費利用	9	9	10	9	9	8	9	10	10	9	8	8	108
合 計	97	98	108	107	102	98	108	115	114	109	103	101	1,260

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
事業対象者	4	6	6	9	7	5	4	8	9	8	8	10	84		
要支援 1	37	34	33	32	32	33	30	32	27	26	21	21	358		
要支援 2	59	64	59	61	57	60	52	53	48	43	49	46	651		
小 計	100	104	98	102	96	98	86	93	84	77	78	77	1,093		
要介護 1	318	353	351	355	358	335	369	392	352	302	337	372	4,194		
要介護 2	196	213	227	241	242	251	262	278	258	231	216	223	2,838		
要介護 3	92	98	76	53	59	45	82	80	62	54	61	31	793		
要介護 4	57	57	66	65	77	84	82	98	87	54	60	68	855		
要介護 5	3	0	5	4	4	5	8	4	7	25	18	22	105		
小 計	666	721	725	718	740	720	803	852	766	666	692	716	8,785		
実費利用	41	40	41	41	39	41	38	47	56	43	44	43	514		
合 計	807	865	864	861	875	859	927	992	906	786	814	836	10,392		
													月平均延べ利用者数	866.0	
														年間稼働率	73.5%
														平均介護度	1.46

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	4	7	9	3	3	7	8	2	0	1	3	4.1
体験利用	7	10	12	6	2	9	9	6	3	2	5	7	6.5

# グループホーム 笑生苑より愛

## 【事業基本方針】

「地域の中のより愛」

～近隣との良き交流のある生活～

## 【目的】

地域の一員として自治会や近隣の方々に見守られている。苑庭にある畑に近隣の方が手入れを行い、また入居者の話し相手にもなっている。日常に近隣の方が来苑する、開かれた苑の運営を実施する。

## 【入居者の状況報告】

### ・入居者状況

平均介護度・・・2.4 平均年齢・・・89.6歳

男性・・・2名、女性・・・5名

### ・入退去状況

「退去」1名 女性・・・1名

(誤嚥から窒息。救急搬送し病院にて死亡)

## 【具体的事業報告】

- ・地域行事への積極的な参加として、夏祭りが行われなかったが、4月と12月に農・排水路の清掃作業を行った。
- ・月2回昼食作りを行っている。畑で収穫した野菜を使い、季節を感じられるように工夫している。
- ・昨年度から曜日ごとに午後の活動を定期的に行うことにしている。月曜はレク・ゲーム、水曜は習字・硬筆、金曜は塗り絵とした。職員にも定着し、確実に出来るようになっている。
- ・南圏域 GH 協議会への参加。今年度2回開催され、各事業所の情報交換の場となっている。
- ・南圏域の GH の職員が運営推進会議に「知見を有するもの」として出席してくださる。こちらからも出席しており、横のつながりが広がっている。

### 3、月別行事

月	実施項目	場所	目的
4月	ドライブ	市内	季節を感じる。
5月	玉ねぎの収穫 ドライブ	より愛 市内	収穫を喜ぶ。 気分転換を図る
6月	スポーツ大会 ドライブ	より愛 市内	運動不足解消。気分転換。 季節を感じる。
8月	すいか割り	より愛	季節を感じる。
9月	敬老会 夏祭り	より愛 より愛	長寿を祝う。 他者との交流。
10月	サツマイモ掘り	より愛	収穫を喜ぶ。
11月	ドライブ	市内	気分転換。
12月	クリスマス会 もちつき	より愛 より愛	季節を感じる。 回想。
1月	おしるこ作り・鏡開き 書初め	より愛 より愛	季節を感じる。 季節を感じる。
2月	豆まき チョコバイキング	より愛 より愛	季節を感じる。他者との交流。 季節を感じる。

・月間行事：クッキング（月2回：日曜日）

・おやつ作り（月2回）

・避難訓練実施：5・11月 風水害避難訓練実施：9月

・

## 【令和5年度の状況・評価】

### ・空床が続く

2階の部屋が空いている。階段の昇降が出来ることなど入居されるにあたっての条件がありなかなか難しい。

### ・職員数の不足

職員の勤務条件に制限があり、日々の業務を遂行することが精いっぱい状況である。行事を行うことも担当回数が増え、負担が増した。

## 【令和5年度目標の達成状況】

1. コロナ禍で面会が制限され、閉鎖的になっていた。今後は、外出を定期的に行い、入居者の希望にそって戸外に出かけられるような支援を行いたい。また、ボランティアの協力を得ながら、今までよりも、入居者が張り合いや楽しみのある生活を送れるように努めていきたい。

⇒コロナ過で外出を控えたこともあり、入居者に下肢筋力の低下がみられる。そのため、外出は季節ごとに行ったが、全員が参加することが難しかった。今後も個別で対応することが増えると予測するが、続けていきたい。

2. 職員が最低1回は自身の知りたいこと、興味のあることなどを学習し、発表する場を設け、自己研鑽に努める。

⇒毎月のミーティングで、担当になった職員が自分の興味のあることを調べ、発表する場を設けた。不慣れなこともあり、気になったことをただ発表する場になったが、全員行うことが出来た。今後も続けたいので“なぜそのことを調べたのか”“調べてどうだったのか”など、発表の方法を工夫したい。

3. 年間稼働率98%以上を確保し事業運営の安定化を図る。

⇒年間稼働率は達成できず。9月に1名の退居があり、入居者が7名のままである。

介護度別入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
要介護 2	3	3	3	3	3	3	2	2	2	2	2	2	2.5
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 4	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1.6
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	0.4
合 計	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	7	7	7.5
男 性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
女 性	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

介護度別延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	84	93	1,095
要介護 2	90	93	90	93	93	90	62	60	62	62	56	62	913
要介護 3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 4	60	62	60	62	62	60	62	30	31	31	28	31	579
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	30	31	31	28	31	151
合 計	240	248	240	248	248	240	217	210	217	217	196	217	2,738
											月平均延べ入居者数		228.2
											年 間 稼 働 率		83.3%
											平 均 介 護 度		2.19

# デイサービスセンター 宇部あいおい苑

## 【事業基本方針】

「ここに来て良かった」・「楽しいと思えるデイサービス」を支援方針とし、利用者個々の権利と意思を尊重しつつ、その存在意義を見出せるよう中立公平な視点に立ち、行政・病院機関・他の介護事業所・地域包括支援センター・地域施設などと連携・協働し、利用者を支える地域拠点としての展開を行う。

## 【目的】

利用者が住み慣れた地域で、その人らしく在宅生活を継続していけるような「楽しみ・生きがい作り」に努め、ご利用者と職員が「共に楽しく・穏やか」に過ごすことのできる安心・安全な支援業務を、介護職員・看護職員・機能訓練指導員が一体となって提供する。

## 【具体的事業報告】

### 1. 「利用者の満足度」の向上

- ・丁寧でひたむきな対応を第一に、楽しい・嬉しいと思う時間を増やす
- ・利用者個々の利用時間に配慮した行事やレクリエーションを計画・実施する
- ・利用者の体調を十分に把握・考慮し、メリハリのあるデイサービスづくりを実施する

### 2. 「継続的な地域協働」の構築

- ・職員の職務経験を活用し、公民館等での活動を通じた「見える事業所づくり」を行う
- ・傾聴ボランティアや障害児童デイとの協働など「行きたくなる事業所づくり」を行う
- ・当苑ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所との「繋がる事業所づくり」を行う

### 3. 「多様化するニーズ」への対応

- ・ご利用者個々のニーズや支援計画を把握し、個別に関わる“質”を高める
- ・自宅では一人で行えないことを職員と共に行い、“存在意義”を高める
- ・研修や地域行事・活動を通じて自己研鑽に努め、職員の“やりがい”を高める

## 【令和5年度の状況・評価】

令和5年4月および10月に発生した新型コロナクラスターの影響は、当日利用者の減少だけでなく入院や入所での利用終了となり、収支に大きくマイナス影響を与える要因となった。また、創設以来からある什器備品類の修理も続いており、適正な収支状況を圧迫する原因となっている。

一方、昨年度に新規受入の要支援利用者が要介護利用者への区分変更、要介護者の新規利用も定期的に受け入れることが得ることが出来たため、利用者数、延べ利用者数は共に増加するなど、ここ数年では見なかった良い兆候もある。

いずれにせよ、宇部市内における苑の立ち位置を鑑みたとき、通所介護事業単独で早急な事業改善は見込めないことは常々事業所より発信している。

昨年度より事業推進本部に提案している職員面談等を迅速に実行していただき、タイムリーな人員確保と連動して、宇部あいおい苑全体での収支改善を実施したい。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 毎月の職員会議で、職員対話を中心とした様々な資質の向上に努める。  
年間を通じて、毎月第 2 金曜日にデイサービスセンター、ヘルパーステーション、居宅介護支援事業所合同での職員会議を毎月開催することが出来た。  
会議の内容も一方的な講義や知識研修だけでなく、対話や意見交換を積極的に行える場づくりを行い、職員個々の業務に対する考え方を聞く・知ることで、サービスごとの結びつきも深まっている。
2. 施設体験 3 件・新規利用 2 件を毎月の目標として、事業運営の安定化を図る。  
平均で体験 2. 2 5 件/月（年間 2 7 件）・新規利用 1. 7 5 件（年間 2 1 件）であった。  
年度当初より、毎月 1 日に居宅介護支援事業所巡回を管理者・生活相談員で実施し、昨年度以上の体験や新規利用を獲得出来たが、目標に定めた数値までは達成できていない。  
居宅介護支援事業所巡回と苑外活動（周知活動）を協働して、目標到達に努める。
3. 地域との関り・結びつきをより深めるため、苑外活動を月 1 回実施する。  
合わせて 2 階フロアやテラス、玄関前駐車場など施設を有効活用した行事等を実施する。  
令和 4 年度に全く実施の無かった苑外活動を再開し、おおむね 1 月に 1 回の活動を行う事が出来た。  
特に、近隣郵便局や商店街に“あいおいだより”を掲示出来るようになったことで、地域住民からの問い合わせが新規利用に結び付いた事例もあり、苑外活動の成功事例も体験することがあった。  
また、令和 5 年 5 月より毎月第 3 水曜日に、2 階フロアで「認知症カフェ」を開始した。
4. 当苑ヘルパーステーション・居宅介護支援事業所との適切な協力関係を構築し、利用者やそのご家族に効率的かつ効果的なサービスを提供する。  
各サービスの管理者、主任・副主任との施設運営委員会を毎月実施し、サービスごとの課題や特徴を互いに理解しつつ、情報共有を行うことで、特に緊急性のある事案については素早くサービスに繋げる件数を増やしている。
5. 新型コロナウイルス感染予防に努め、災害時も含め継続性・安定性のある事業体制を構築していく。  
4 月と 1 0 月に新型コロナウイルス感染症クラスターの影響があり、経営的安定性に欠ける事業運営となってしまった。  
事業推進本部から地理的距離もあり、支援を受けることが困難な事業所であるため、自助を中核とした感染予防対策、災害対応に事前に取り組むためにも、定期的な実践的研修を 3 カ月ごとに行い、「持ち込まないこと」を強く意識した職員意識の向上に努めてきた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
要支援 1	3	2	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	17
要支援 2	4	3	3	4	3	3	3	2	2	1	2	2	32
小 計	7	5	4	5	4	4	4	3	4	2	4	4	50
要介護 1	15	20	16	16	14	17	18	18	19	19	19	22	213
要介護 2	6	6	8	8	9	11	9	8	9	7	9	10	100
要介護 3	5	6	6	6	6	5	5	5	5	5	6	5	65
要介護 4	3	3	3	3	4	2	2	3	3	3	2	3	34
要介護 5	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	5
小 計	29	36	34	34	34	36	34	34	36	34	36	40	417
実費利用	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	13
合 計	38	42	39	40	39	41	39	38	41	37	41	45	480

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	
要支援 1	11	8	5	4	4	5	4	3	4	2	8	10	68	
要支援 2	18	14	13	17	12	16	14	9	5	5	12	11	146	
小 計	29	22	18	21	16	21	18	12	10	7	20	21	215	
要介護 1	129	167	161	160	152	173	176	173	192	175	184	219	2,061	
要介護 2	46	64	77	78	79	86	70	84	90	86	82	93	935	
要介護 3	60	69	65	82	71	64	54	70	65	65	67	70	802	
要介護 4	41	48	45	41	43	16	18	20	19	18	21	20	350	
要介護 5	0	6	12	10	10	1	0	0	0	0	0	0	39	
小 計	276	354	360	371	355	340	318	347	366	344	354	402	4,187	
実費利用	8	4	4	4	4	4	4	2	4	4	3	5	50	
合 計	313	380	382	396	375	365	340	361	380	355	377	428	4,452	
													月平均延べ利用者数	371.0
													年間稼働率	51.0%
													平均介護度	1.64

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	1	4	1	1	2	2	1	0	3	1	1	4	1.8
体験利用	4	3	1	0	2	3	1	2	1	1	2	7	2.3

# ヘルパーステーション 宇部あいおい苑

## 【事業基本方針】

ご利用者の気持ちに寄り添い、本人のニーズや意思を尊重出来るよう配慮しつつ、実現に向けた自立支援・援助を行うことを念頭に、ヘルパーステーション単独で考えるのではなく「宇部あいおい苑」全体でご利用者やご家族との良好な関係を構築し、職員一人ひとりが責任を持って支援・援助していく。

## 【目的】

常にご利用者を中心として考えながらご家族の気持ちにも寄り添い、地域資源の活用も含め「気配り・目配り・心配り」を行うことで、ご利用者の満足度に繋げる。

また、ご利用者の小さな変化に気付く力とサービスの質の向上・均一化を図り、ご利用者・ご家族と職員、職員同士の信頼関係を構築することを目的とする。

## 【具体的事業報告】

1. 業務内容の見直しを図り、事務作業の効率化を進める。
2. 特定事業所加算（Ⅱ）算定必須事項による、ヘルパーの訪問毎の報告により、正確な現状把握をする。サ責からの毎回指示の実行により、次回の訪問がさらに良くなるよう支援に活かす。
3. 地域包括支援センター、居宅介護支援事業所への現状報告書作成及び、積極的な情報提供を行う。
4. 宇部市訪問介護事業所連絡会・研修会に参加し、情報・意見交換継続強化と介護技術、知識の向上を目指す。
5. 宇部CM・家族・他事業所関係者との密な連絡・連携の確保
6. 報告・連絡・相談（ほうれんそう）の徹底

## 【令和5年度の状況・評価】

令和5年度は26,193千円の事業活動収入があり、4年度の比べて54千円の減収となった。令和4年度に事業を譲受し、今年度がその基盤となる1年であったと思う。介護報酬はほぼ保つ事は出来たので、次年度も安定した運営体制を継続したい。

ヘルパーステーション初の産休を取得した職員もいたが、『報告・連絡・相談』を円滑に行い、交代職員との引継ぎもスムーズに行えた。10月には実地指導があり、指導に従い改善した。次年度も職員間のコミュニケーションを密に行い、良い支援が出来るように努めたい。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 職員間の連携・コミュニケーション、事象共有を目的とした月 1 回の職員会議の実施。  
ヘルパー会議は毎月行い、支援内容の情報共有、支援時の改善点について話し合いをした。
2. 多様化するニーズに対応するために、月 1 回の苑内研修を実施することでの支援力の向上に努める。  
月 1 回の苑内研修を行った。11 月には新しい会議の形として、苑長指導のもと、「フアシリテーション」を行った。職員が緊張せず、意見を出す事ができ、貴重な体験となった。2 月には、他事業所の看護師さんを講師として招き、ベッド上での洗髪実践研修を行った。職員がモデルとなり、洗髪される側も体験してみた。聞くだけではなく実践をしたことが、支援に役立てば良いと思う。
3. 外部研修への参加を推奨し、様々な社会資源とのネットワークづくりを行う。  
リモート研修という形での外部研修は行ったが、社会資源とのネットワークづくりは出来ていないように思う。次年度は力を入れていきたい。
4. 「支援の質の向上」のため業務共有を行い、職員間の関係性の強化・意見交換できる環境づくりを行う。  
職員の人数が増えたことから、休憩スペースを作り、ポット等を準備し、気軽に立ち寄りてもらえ、話しが出来るように環境を整えた。
5. 苑内のデイサービスセンター・居宅介護支援事業所との連携を強めるべく、研修や共有会議等に参加し、苑内職員を対話のできる信頼関係を構築する。  
月に一度の運営会議、苑の職員会議に参加し、情報共有、研修を行った。苑の職員会議で行った研修をヘルパー会議でも研修し、共有した。

## 介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	4	4	4	4	4	4	3	3	3	3	3	12	51
要支援 1	5	6	5	5	6	5	5	5	6	6	6	7	67
要支援 2	15	15	16	16	14	13	14	14	15	15	15	13	175
小計	24	25	25	25	24	22	22	22	24	24	24	32	293
要介護 1	32	32	30	31	33	33	32	35	31	27	27	26	369
要介護 2	10	10	11	11	11	14	14	14	13	10	11	13	142
要介護 3	3	4	2	2	2	3	4	4	3	4	4	3	38
要介護 4	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
要介護 5	0	1	1	0	1	1	0	0	1	2	2	2	11
小計	46	48	45	45	48	51	50	53	48	43	44	44	565
実費利用者	0	4	1		3	0	4	4	2	1	1	2	22
合計	70	77	71	70	75	73	76	79	74	68	69	78	880

## 介護度別月間訪問件数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	16	18	16	14	17	14	12	15	11	11	13	12	169
要支援 1	27	30	27	22	34	26	24	26	28	31	33	37	345
要支援 2	107	126	132	122	108	99	109	95	101	104	98	81	1,282
小計	150	174	175	158	159	139	145	136	140	146	144	130	1,796
要介護 1	272	306	263	253	281	286	298	318	263	237	217	231	3,225
要介護 2	72	73	78	84	93	103	90	95	93	67	63	106	1,017
要介護 3	59	41	27	22	17	14	41	30	22	30	20	18	341
要介護 4	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
要介護 5	0	11	25	0	61	53	0	0	16	35	45	47	293
小計	404	432	394	360	453	456	429	443	394	369	345	402	4,881
実費利用者	0	6	1	3	15	0	7	6	4	2	2	3	49
合計	554	612	570	521	627	595	581	585	538	517	491	535	6,726
1日あたりの訪問件数	18.5	19.7	19.0	16.8	20.2	19.8	18.7	19.5	17.4	16.7	17.5	17.3	
	月平均訪問件数												560.5

# 居宅介護支援事業所 宇部あいおい苑

---

## 【事業基本方針】

介護保険法の理念に基づき、高齢者が在宅にて自立した生活を送れるよう、また介護者が在宅で介護できるように、行政・医療・施設・居宅サービス事業者・地域包括支援センター・地域の資源の活用も含めた居宅サービス計画書の作成、介護保険の相談業務を行なう。

## 【目的】

利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立って、その人らしく生活を継続できるように中立・公平的な視点からサービス利用の調整を行う。

介護が必要な状態になっても、自身の有する能力に応じて可能な限り生活を営むことができるよう、心身の状況や環境因子に配慮し必要なサービスや社会資源を提供する。

## 【具体的事業報告】

- ① 住み慣れた地域で在宅生活が続けられるように、適切な福祉サービス・医療・社会資源の機能を有機的につなげ、きめ細やかなサービスを提供。

A:コロナウイルスが第5類にはなったが、病院での面会禁止は続いており、在宅介護を希望される方が相変わらず多い。利用者の様々なニーズに応えられるよう、各関係機関との連携を綿密に行い、必要な時に必要なサービスが途切れる事なく受けられるようにした。

- ② 近隣の病院・地域包括支援センターや様々な社会資源とのネットワーク・信頼関係の構築するため迅速・丁寧・確実な対応した。

A:地域ケア会議へ参加し、様々な分野の方と交流する機会が出来、ネットワークが広がっており、結果、利用者に還元する事が出来ている。

- ③ 多様化するニーズに対応する為、職員それぞれが研修参加や新たな社会資源の発見を行い自己研鑽に努めた。

A:主任ケアマネである事から、研修、更新研修等は必須であり、研修に参加している。また、他の居宅介護支援事業所との研修会を自ら開催し、自己研鑽に努めた。

## 【令和 5 年度の状況・評価】

- ① 今年度は宇部居宅始まって以降初の一千万超えを達成する事が出来た。目標額をほぼ毎月上回る事が出来ている。2人体制であり、現在特定事業所加算が算定出来ていないが、算定出来る加算については細目に確認して取りこぼす事が無いように注意した。
- ② 新規の獲得件数に関しては昨年より1人増の合計37件。毎月2名以上の新規を獲得出来ている。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 新規契約者の継続的な確保：年間12件以上（毎月新規の依頼を得るとし）を目指す。その為に地域包括支援センターや病院、地域連携室等の各種機関との連携を密にし、依頼のあった利用者のその後の報告、相談等、利益と関係のない心の繋がりを大切にしていく。
  - ・数字としては令和5年度の状況、評価の②とする。
  - ・地域ケア会議に参加し多業種との交流を行っている。また地域包括からの新規の依頼をなるべく断らないようにしたり、要支援の利用者のその後等の報告（モニタリング）を定期的に行い、報告を怠らないようにしている。
2. ニーズの把握：アセスメントを重要視し利用者の叶えたい夢、ご家族の想い等を具体化し叶えられる目標として提示する。その後もモニタリングを通し、実現出来ているかどうかの確認をし、望む生活に近づけるように意識して支援を行う。
  - ・アセスメントは初回のみに限らず、ご本人の負担にならない程度順を追って、また、信頼関係の構築があってこそ聞ける内容等、その時々に応じた配慮をしながら行っている。モニタリングは丁寧に行い、利用者から発信しやすい環境作り心掛けていく。
3. 研修の参加：当居宅介護支援事業所は職員全員が主任資格を持っている為、研修参加は必須となるが、研修を通じて自己研鑽を行うと共に、常に振り返りを行う。ケアプラン連携システムへのスムーズな移行が行えるようにする。
  - ・研修は適宜参加し、振り返りと自己研鑽を行う事を継続している。ケアプラン連携システムはまだ導入していないが、導入時にはスムーズに行えるようにしたい。
4. コンプライアンス：年に1度の自己点検、介護サービス情報公表制度を適切に受諾し、居宅介護支援提供にあたっては、公平中立、適切なアセスメントのもとにサービス提供を行う事とする。
  - ・コンプライアンスは常に頭に入れておき、事業所の利用割合についても利用者に説明してきた。来年度よりサービス事業所の利用割合説明が努力義務になった為、利用

者にはサービス公表制度がある事を説明し、引き続き確認してもらうようにしている。

## 居宅介護支援事業所 宇部あいおい苑

介護度別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	1	1	1	9
要支援 2	2	1	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	19
小 計	3	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	28
要介護 1	29	34	31	32	32	35	38	37	34	35	33	33	403
要介護 2	12	11	14	12	12	12	14	14	15	15	17	17	165
要介護 3	9	9	10	9	9	8	8	9	11	9	9	11	111
要介護 4	8	9	8	10	11	9	9	8	10	9	8	8	107
要介護 5	6	6	6	8	4	6	4	3	3	5	4	4	59
小 計	64	69	69	71	68	70	73	71	73	73	71	73	845
合 計	67	71	71	73	70	72	75	73	75	76	74	76	873
月平均利用者数												72.8	

# グループホーム 湯田あいおい苑

---

## 【事業基本方針】

1. 「地域と友（共）に」あることを大切にします
2. 「笑いの絶えない心地よい空間」を大切にします
3. 「約束を守る」ことを大切にします
4. 「音のある風景」を大切にします
5. 「温もりのある香り」を大切にします
6. 「認知症を個性ととらえ思いやりの介護」を大切にします

## 【目的】

家庭的な生活のもとで、安全で住みやすい環境作りを行い、日々の生活の中で身体機能維持・向上を図り、楽しく毎日の生活ができるように支援させていただいています

## 【入居者の状況報告】

### (1)入退居・入院状況

・退居者 5名                      入居者 5名

### (2)入居者の年齢

・80歳代×10名    ・90歳以上×7名                      平均年齢 87.3歳

### (3)病名

- ・アルツハイマー型認知症 8名
- ・前頭側頭型認知症 1名
- ・レビー小体型認知症 1名
- ・血管性認知症 7名

### (4)障害高齢者の日常生活自立度

・J2×3名    ・A1×7名    ・A2×4名    ・B1×3名

### (5)認知症高齢者の日常生活自立度

・Ⅱb×4名    ・Ⅲa×6名    ・Ⅲb×3名    ・Ⅳ×3名    ・M×1名

### (6)医療機関への受診

- ・おおうちクリニック                      ・すえなが内科在宅診療所                      ・福田歯科医院
- ・仁保病院                                      ・県立総合医療センター
- ・山口赤十字病院                              ・済生会山口総合病院                              ・佐々木外科病院
- ・ながた泌尿器科                              ・大野整形外科リウマチ科                              ・いがた眼科
- ・とみなが皮膚科                              ・せぐち皮膚科    ・かく脳神経外科

- ・神徳内科
- ・のむら医院
- ・ひまわり耳鼻科クリニック
- ・かしだ産婦人科クリニック
- ・訪問看護おかふじ

## 【具体的事業報告】

- (1) 市内探訪：車窓から季節の風景を楽しんでいただいた  
桜、つつじ、紫陽花、初詣
- (2) 毎月の行事：誕生会、音楽レクレーション、手芸教室、料理（土曜日）  
季節の行事：母の日、夕涼み会、敬老会、バーベQ大会、大運動会  
体育祭、クリスマス会、元旦らしく、新年会、節分、ひな祭り
- (3) 地域との交流：散歩でご近所さんと挨拶、回覧板を持っていく  
湯田保育園の灯籠づくり
- (4) 日常的なアクティビティ：書道、ラジオ体操、DVD体操、唱歌、塗り絵、パズル、折り紙、計算ドリル、漢字ドリル、家事手伝い（洗濯物を干す、畳む、食器洗い、台拭き、掃除）

※地域行事等社会交流が困難な状況が続いているが、散歩やドライブなどで季節感を感じていただけるよう取り組んできました。

## 【令和5年度の状況・評価】

- ・9月に新型コロナウイルス院内感染があり、入居者4名感染し、施設内での療養で回復されています。今後もウイルスを持ち込むことがないように日々感染対策を行っていきます。感染対策として継続的に外出やご家族様との面会を制限させていただいたことで、認知症の進行やADLの低下、特に下肢筋力の低下がみられ残念に感じています。
- ・現在の入居者は介護認定1～3ですが、認知症による行動・周辺症状は徘徊等重度化した方が多く、転倒、転落、離設等の事故が増え常に見守介護が必要な分、職員の負担が大きくなっています。
- ・各委員会が中心となって、身体拘束・高齢者虐待、感染症予防、非常災害対策、認知症ケア等の勉強会を行い、職員間でお互いの知識・意識を高め、考え、ご利用者様がより快適に過ごせるよう自己研鑽を図るよう努めました。

## 【令和5年度目標の達成状況】

令和5年度は入居者様および職員も多く入れ替わりがある年でした。

ご利用者様については認知症が重度化し介護負担は重くなっていますが、その時々のおいをくみ取りながら、接し方や取り組み方について定期的なカンファレンス等職員同士が同じ目線でご利用者様に向き合い安心した暮らしが遅れるよう努めています。

また職員については、次世代の若い力が不足し高齢化が進んでいます。当苑も開

16年目に入り、『新たな一歩』として仕事内容の見直しや効率化、施設内研修を行うなど働きやすい職場環境づくりに力を入れました。まだまだ職員不足は続いています。現在は20歳代の職員が2名入職し、職場の雰囲気も明るくなったのではないかと思います。

海ユニット：職員間の連携を図ることで入居者様の安全の確保を行っていくことを目標としていたが、記録が不十分な日もあった。その分日中の活動に力を入れたので日中は穏やかに過ごして頂き、夜間はしっかり睡眠がとれるようになった。

空ユニット：アクティビティは、ご利用者様状態に合ったものが提供でき、新たな楽しみを見つけることができた。職員間では申し送りを確実にを行うようにして情報共有に努めたが、徹底できていない部分もあったのでこれからの課題となっている。一年はあっという間であったがユニット全体で継続できることを大切に、今後に繋げていきたい。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	6	6	6	6	6	6	7	7	7	7	7	8	6.6
要介護 2	4	4	4	4	4	4	2	2	2	2	2	3	3.1
要介護 3	6	6	5	5	5	5	6	7	7	7	6	6	5.9
要介護 4	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0.6
要介護 5	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0.7
合 計	18	18	17	17	17	17	17	17	16	16	15	17	16.8
男 性	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	1	0.7
女 性	17	17	16	16	16	16	16	17	16	16	15	16	16.2

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	180	186	180	186	186	180	217	210	217	217	203	220	2,382
要介護 2	116	124	120	124	122	90	62	60	62	62	58	63	1,063
要介護 3	163	186	150	155	155	150	174	208	217	199	174	186	2,117
要介護 4	30	31	30	31	31	30	31	2	0	0	0	0	216
要介護 5	30	31	30	31	31	30	31	30	24	0	0	0	268
合 計	519	558	510	527	525	480	515	510	520	478	435	469	6,046
月平均延べ入居者数													503.8
年 間 稼 働 率													92.0%
平 均 介 護 度													2.15

# グループホーム 徳佐あいおい苑

## 【事業基本方針】

1. あ 明るく微笑みのある生活 を大切にする。
2. い 生きがいのある生活 を大切にする。
3. お お互いを認め合う生活 を大切にする。
4. い 今を共に生きる生活 を大切にする。

## 【目的】

自然の中で季節を感じてもらい、「その人らしく」をモットーに  
毎日を楽しく・生きがいを持って、自分らしく暮らせるように支援する。

## 【入居者の状況報告】

### (1) 入居・退去状況

入居 6 名

自宅 6 名、(内共用型デイサービス利用者よりそのまま入居 3 名、自宅 2 名、  
他グループホームより 1 名)

退去 6 名 病院 6 名

### (2) 入居者の年代 (令和 5 年 3 月現在)

80 歳未満 . . . . . 3 名

80 歳以上 85 歳未満 . . . 0 名

85 歳以上 90 歳未満 . . . 4 名

90 歳以上 95 歳未満 . . . 8 名

95 歳以上 . . . 3 名

平均年齢 . . . 88.4 歳

### (3) 介護度別 (令和 5 年 3 月現在)

平均介護度 (3 月現在) . . . 1.8

要介護 1 5 名

要介護 2 10 名

要介護 3 3 名

要介護 4 0 名

要介護 5 0 名

#### (4) 医療機関への受診・入院

定期往診 澤田医院×18名

定期受診 仁保病院×6名

山口日赤×1名（職員対応） 済生会病院×2名（家族対応2名）

### 【具体的事業報告】

令和5年度、徳佐あいおい苑はコロナ感染対策を行いながら季節に合った行事を苑外、苑内共に行うことができた。利用者支援に於いても利用者の意思決定支援を基に支援できた。入所、退所も6名あったが、本人、家族に希望に添う入所、退所の運びとなった。全体的には昨年と変わりなくのんびりゆっくり過ごせた一年間でした。

#### (活動の状況)

##### 1. 苑内行事

誕生会、七夕行事、敬老会、

クリスマス会、新年会、節分祭、ひな祭

##### 2. 苑外行事（外出等）

近所を散策、ドライブ、花見

##### 3. 交流行事

三世代交流事業に参加、阿東東中学校、福祉体験事業に講師参加。

##### 4. その他、日常の活動

散歩・ウッドデッキでのお茶や日光浴・パンケーキ作り

体操・家事の手伝い・貼り絵・ちぎり絵・アクティブレク

### 【令和5年度の状況・評価】

今年、一年間を振り返り、利用者支援に於いては入所、退所、6名ありましたが全体的には利用者、家族に寄り添う支援ができた。利用者支援全般に於いても健康状態を良く把握し早期に対応することができた。また、利用者の意思、尊厳を大切に、利用者のペースで支援することができた。職員状況は特に変わりなく、また職員研修ではスピーチロックについて研修、助言等を行ってきたがやはり職員の中には自分の感情をコントロールできず、時折、利用者に対して指導的発言をすることもあった。そこは反省すべき所である。全体的には利用者、その家族、職員等、徳佐にあった支援、過ごし方ができたと評価したい。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 地域包括ケアシステムの施設の位置づけを理解し役割を果たす。

緊急ショートステイの活用、共用型デイサービスでは利用者、家族に希望に添う時間帯等に対応できた。地域の施設としての位置づけを理解し柔軟に対応できた。

2. 利用者、家族に寄り添い、可能な範囲で希望に添う支援を行って行く。

入所、退所の際など、利用者、家族の意向を尊重した支援を行うことができた。ただ、家族や本人は苑に戻りたい意向はあるが医療的支援が必要の際は苑では難しい状況もあり、やむを得ない選択をする場合もあった。

3. 日頃から利用者の体調管理に努め早期発見、早期対応に努める。

日々の利用者の体調管理に努め、早期対応を図り支援できた。急を要する場合は救急搬送にて対応した。

4. グループホームでは年間平均稼働率 97%、共用型デイサービス年間平均稼働率 50%以上

で安定した収入を図る。

グループホーム、共用型デイサービスデイサービス共にほぼ目標は達成でき安定した収入に努めることができたが反面、支出も多かった。

5. 共用型デイサービス、緊急ショートステイ等を有効活用し利用者、家族のニーズに対応し

て行く。

家族、ケアマネージャーの声に傾け、共用型デイサービス、緊急ショート共に有効活用できた。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	3	3	3	4	4	5	5	5	5	5	5	5	4.3
要介護 2	8	8	8	8	8	9	10	10	9	10	10	10	9.0
要介護 3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
要介護 4	3	3	3	2	2	0	0	0	0	0	0	0	1.1
要介護 5	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0.5
合 計	18	18	18	18	18	18	18	18	17	18	18	18	17.9
男 性	6	6	6	5	5	5	5	5	3	4	4	5	4.9
女 性	12	12	12	13	13	13	13	13	14	14	14	13	13.0

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	90	93	86	103	118	110	124	120	139	155	145	155	1,438
要介護 2	240	248	240	248	240	239	304	270	279	303	290	282	3,183
要介護 3	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	87	93	1,098
要介護 4	90	93	45	62	47	0	0	0	0	0	0	0	337
要介護 5	30	31	30	31	31	30	0	0	0	0	0	0	183
合 計	540	558	491	537	529	469	521	480	511	551	522	530	6,239
	月平均延べ入居者数												519.9
	年 間 稼 働 率												95.0%
	平 均 介 護 度												2.13

# グループホーム 徳地あいおい苑

---

## 【事業基本方針】

1. 個性を尊重し、信頼関係の構築に努める。
2. 価値観に共感し、毎日を大切に作る。
3. 敬愛の心で支援を行う。
4. ご家族や地域と共に、笑顔あふれる『我が家』にしていく。

## 【目的】

住み慣れた地域において、家庭的な環境のもとで、食事・入浴・排泄などの日常生活の援助及び心身の機能訓練を行い、入居者が有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう支援することを目的とする。

## 【事業基本方針】

- ・個性を尊重し信頼関係の構築に努める。
- ・入居者の皆さんと価値観を共有した毎日を過ごす。
- ・常に敬愛の気持ちを持って、支援を行う。
- ・ご家族や地域の皆様の協力を得ながら、明るく楽しい笑いのある場所づくり努める。

## 【目的】

入居者一人ひとりと向き合い信頼関係を築き必要とされる支援を行うことで、毎日が安心安全に暮らし『ぬくもりの家』を提供する。

## 【入居者の状況報告】

(1) 入居 3名 退居 2名

(2) 入居者の年齢

70～79歳以下×0名 80～89歳以下×8名 90歳以上×9名

(3) 介1 3名 介2 6名 介3 4名 介4 1名 介5 4

#### (4) 医療機関への受診支援

- ・おおうちクリニック ・仁保病院 ・えま皮膚科 ・あさひ歯科 ・かわもと眼科
- ・山口赤十字総合病院 ・県立総合医療センター ・山口泌尿器科クリニック
- ・山縣循環器内科 ・とよた整形外科 ・小郡第一病院 ・松本外科 ・桑陽病院
- ・防府市保健センター休日診療所

### 【具体的事業報告】

- (1) 市内外探訪 車窓から季節の風景を楽しむ（桜、ツツジ、紫陽花など）、初詣
- (2) 苑内行事 運動会、ゲーム大会、敬老会、クリスマス会、餅つき、敬老会など
- (4) その他活動 書道、ラジオ体操、風船バレー、唱歌、塗り絵、ちぎり絵、折り紙、切り絵、裁縫、漢字ドリル、計算ドリル、文章書き写し、テーブルゲーム、おやつ作り、家事（料理下ごしらえ、食器洗い、食器拭き、台拭き、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除）など

### 【令和5年度の状況・評価】

コロナ対策としては今まで同様、面会についてはリモート面会を行い、直接の面会については状況に応じ制限をかけさせていただいた。インフルエンザ感染とコロナ感染が見られ職員の人員配置が十分とは言えない状況での支援となった月もあった。感染対策は消毒の徹底を行い、できる限りのことは行ってきた。外出のできない状況ではあったが、苑内では日々の積み重ねを大切にしたい支援を行い、身体を十分に動かしていただけるような企画を行ってきた。外出の機会が減少しており下肢筋力の低下が多くみられる。

### 【令和5年度目標の達成状況】

- ・入居者主体の関りを持ち職員同士が認めあう。

職員主体の関りが多く見られ、入居者の思いを十分に思いやることが少ないように見られた。苑内研修で虐待身体拘束の勉強会も行ってきたが入居者主体の支援が出来ているとは言えない。

- ・入居者の尊厳を守り言葉掛けを振り返り改める。

苑内研修にて言葉がけについて行ってきた。不適切な対応については職員同士が指摘しあえるような風土は少しずつ出来つつある。

- ・苑の特色を外部発信ができ稼働率を上げることに繋げる。空床の期間を短くし年間平均稼働率 97%にする。

ゆったりとした時間の中で過ごしていただく事を目標に周辺のケアマネに情報提供は行ってきた。稼働率 97%を達成することができず、入院退居による空床が長く続いていた時期があり、安定した収入に繋げることが出来なかった。

苑内研修として定期的な身体拘束虐待勉強会を主軸として専門性を高めていくことに努めた。繰り返すことで自ら考える訓練、よりよい環境に近づけるための風土づくりに繋がっていく事が目標。今後も継続していく予定。尊厳についてはこれからも職員研修を行い、入居者の生きがいを支援することを考えていきたい。

## 介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	4	3	3	3	2	2	2	2	3	3	3	3	2.8
要介護 2	6	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6.6
要介護 3	5	5	5	5	6	6	6	6	5	4	3	4	5.0
要介護 4	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0.3
要介護 5	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	4	3.2
合 計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	17	17	18	17.8
男 性	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2	2	1.3
女 性	17	17	17	17	17	17	17	17	15	15	15	15	16.3

## 介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	120	63	60	62	62	60	62	60	89	93	87	93	911
要介護 2	180	217	210	217	216	210	217	193	186	186	174	186	2,392
要介護 3	150	155	150	155	178	160	155	136	124	124	87	124	1,698
要介護 4	0	0	0	0	0	0	0	0	31	8	27	4	70
要介護 5	90	93	90	93	93	90	93	90	93	93	116	124	1,158
合 計	540	528	510	527	549	520	527	479	523	504	491	531	6,229
月平均延べ入居者数													519.1
年 間 稼 働 率													94.8%
平 均 介 護 度													2.70

# 特別養護老人ホーム オ・サーバ aioi

## 【事業基本方針】

1. 入居者一人ひとりの意思及び人格を尊重し、施設サービス計画に基づき、居宅における生活への復帰を念頭において、入居前の居宅における生活と入居後の生活が連続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会的関係を築き、自律的な日常生活を営むことを支援することを目指す。
2. 地域や家庭との結びつきを重視した運営を行い、県・市、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者、居宅サービス事業者、その他の介護保険施設、保健医療サービス、又は福祉サービスを提供する者との密接な連携に努める。

## 【目的】

**人の為に走れ 優しさと笑顔あふれる暮らし～笑顔でハイ！！**

- ・入居される方々に喜んでいただき、笑顔でありがとうと言っていただく。
- ・地域や家族はもちろん色々な方々の係りの中、穏やかに過ごしていただく。

## 【入居者の状況報告】

1. 入・退居状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	入居	退居	(死亡退居)
男性	3名	2名	(2名)
女性	7名	7名	(3名)
合計	10名	9名	(5名)

2. 介護度別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均介護度：3.8

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0名	0名	1名	5名	0名	6名
女性	0名	0名	9名	11名	3名	23名
合計	0名	0名	10名	16名	3名	29名

3. 年齢別入居者数（令和6年3月31日現在）

平均年齢：86.0歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	0名	1名	3名	1名	1名	6名
女性	0名	0名	2名	9名	12名	23名
合計	0名	1名	5名	10名	13名	29名

## 【具体的事業報告】

1. 介護部門:河瀬U T) 入居者一人ひとりの想いに寄り添いながら、笑顔で接する。入居者様に挨拶を行って業務に入った。  
雲母U T) 安心・安全みんなが笑顔で過ごせるユニットづくりができた！  
寛 U T) その人らしさを大切にして、温もりのある介護をした。
2. 医務部門：日常生活の観察の中から異常を早期に発見し、適切な処置へとつなげることができた。利用者様の思いに寄り添い、安全で安楽な環境を提供することができた。
3. 栄養部門：入居者様個々人の喫食率70%を目標としたが、達成できなかった。看護、介護、調理、栄養士が情報共有し低栄養を回避した食事内容を計画し提供した。
4. 生活相談部門：稼働率96%以上継続と掲げおり、結果として97.1%と達成できた。ショートステイや医療・居宅とも密に連携し入退去の円滑を図った。ご家族とのお便りや、広報誌、LINEなども活用して情報発信を行った。

## 【令和5年度の状況・評価】

### 1. 介護部門

河瀬U T) コロナ感染症により、ADLの低下した利用者があり、雰囲気が変わってしまった。今後は行事なども増やし、利用者様にもっと喜んでいただければと思います。

雲母U T) 時間に余裕がなく、待ってもらったりすることもあり、業務をこなすことで手一杯だった。利用者様にも伝わっている気がするので、反省したい。

寛 U T) その人らしさは大切にしてきたつもりです。職員が不足する中、ぬくもりは少し欠けていたように思います。

### 2. 医務部門

異常の発見には、普段の様子にどれだけ気づいているかが大切と感じた。看護間で情報共有を行うことの意識付けが難しかった。今後も早期発見できるよう、努めていきたい。

### 3. 栄養部門

喫食率の低下から低栄養を回避できず、体調悪化、入院になったケースが有り、低栄養の方の早急な対策が必要と痛感した。個々人での喫食率70%は達成できなかった。

### 3. 相談員部門

年間稼働率は97.1%と目標を達成することができた。この要因は、ショートステイから特養入居へのスムーズな移行ができたことと、年間退去率13件(R4)→6件(R6)と徐々に安定してきたことが理由にある。医・栄・介との連携のおかげではあるが、「オ・サーバさんだからこそお願いしたい」というご家族もでてきている。公式LINE、毎月の広報誌、ご家族へのお手紙も継続できており、地域やご家族と施設をつなぐ良きツールとなっている。

介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 3	9	9	9	9	9	8	9	10	10	10	10	10	9.3
要介護 4	15	15	15	16	16	16	15	16	17	17	16	16	15.8
要介護 5	6	5	4	4	4	5	5	2	2	2	3	3	3.8
合 計	30	29	28	29	29	29	29	28	29	29	29	29	28.9
男 性	7	7	7	7	7	7	7	6	6	6	6	6	6.6
女 性	23	22	21	22	22	22	22	22	23	23	23	23	22.3

介護度別月間延べ入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 3	270	279	270	279	279	240	279	300	310	310	290	310	3,416
要介護 4	423	465	450	494	470	477	454	466	502	527	464	496	5,688
要介護 5	143	143	120	112	97	128	97	60	62	62	87	93	1,204
合 計	836	887	840	885	846	845	830	826	874	899	841	899	10,308
月平均延べ利用者数													859.0
年間稼働率													97.4%
平均介護度													3.81

# ショートステイ オ・サーバ aioi

## 【事業基本方針】

1. 利用者の心身の特性を踏まえ、可能な限り居宅において、有する能力に応じて、自律した日常生活を営めるよう、必要な日常生活上の世話及び機能訓練を行い、社会的孤立感の解消及び心身機能の維持、家族の身体的及び精神的負担の軽減を図る。
2. 要支援、要介護状態の軽減又は悪化の防止に資するよう、認知症等利用者の心身の状況を踏まえて、日常生活に必要な援助を適切に行う。
3. 相当期間以上継続する利用者については、（介護予防）短期入所生活介護計画を作成し、提供するサービス及び機能訓練等の目標を設定し、計画的に行う。
4. 地域との結びつきを重視し、県・市町・居宅介護支援事業者・その他居宅サービス事業者、保健・医療サービス及び福祉サービス提供者との連携に努める。

## 【目的】

**人の為に走れ 優しさで笑顔あふれる暮らし～笑顔でハイ！！**

- ・地域や家での寂しさを受け止め、楽しみのある生活を提供する。
- ・家族のストレスを軽減し家族関係をリフレッシュする。

## 【具体的事業報告】

1. 介護部門：利用者さまも家族も安心して利用できる環境づくりに努めた。
2. 医務部門：日常生活の観察の中から異常を早期に発見し、適切な処置へとつなげることができた。利用者様の思いに寄り添い、安全で安楽な環境を提供することができた。
3. 栄養部門：利用者さまの喫食率70%を達成できた。個々の食形態に考慮し、希望メニューを取り入れ楽しんでいただく食事提供を行った。
4. 生活相談部門：稼働率98%を達成することはできなかったが、空床ができれば早期に情報発信を行った。特養入居待のご利用者の確保という立ち位置を把握しつつ、特養の入居が見込まれれば、ショート双方のベッドコントロールの調整を行った。LINE等も活用し、空床情報の発信やご家族やケアマネージャーとも情報共有を行った。

## 【令和5年度の状況・評価】

### 1. 介護部門

R5年度は定期のご利用者さまが体調不良等で様変わりしたが、ご家族、ご利用者様も安心・満足されることができていたように思える。

### 2. 医務部門

異常の発見には、普段の様子にどれだけ気づいているかが大切と感じた。看護間で情報共有を行うことの意識付けが難しかった。今後も早期発見できるよう、努めていきたい。ショートステイに関しては、情報過多のこともあり、一歩引いてしまうところがあるので気をつけていく。

栄養部門：ご利用者様の要望を聞き取り、ご当地グルメをスタートすることができ、話題作りもでき大変喜ばれている。喫食率70%も達成できている。

4. 生活相談部門：年間稼働率98%とはならなかった（実稼働率86.5%）。その要因としては、新型コロナウイルスの影響を受け、1月に空床が立て続けに発生したことと、その後の立て直しに日数を要したこと、特別養護老人ホームの空所利用があまり利用できなかったこと（喜ばしいことではあるが、ショートステイの稼働率低下につながる）等が要因と考えられる。対策として、空床が発生すれば、早期に電話やFAXなどで情報発信を行い事業所間で共有を行うよう依頼したものの、実施につながるまでにはタイムラグが発生してしまうこと。立地的な問題（防府・山口の中心部からは離れている）ことも重なり、早期の確保には繋がらなかった。ただ、「何かあったときはオサーバさん」という声が上がっており、信頼と実績にはつながっている為、今後も空床情報を随時発信しながら、新しい利用につなげていきたい。

ショート介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	0	1	0	0	1	0	0	0	2	1	0	0	0.0
要支援 2	1	1	1	1	1	1	1	2	4	1	2	3	2.5
要介護 1	8	7	7	8	9	7	11	8	8	5	6	9	7.5
要介護 2	4	4	4	6	10	8	6	7	7	6	6	2	4.0
要介護 3	6	10	6	11	10	11	8	5	6	7	7	8	7.5
要介護 4	6	5	5	2	3	3	5	4	2	2	3	4	3.5
要介護 5	2	1	2	1	1	1	1	1	1	1	2	2	2.0
合 計	27	29	25	29	35	31	32	27	30	23	26	28	27.0
男 性	14	12	9	8	11	9	12	9	10	9	12	11	11.5
女 性	13	17	16	21	24	22	20	18	20	14	14	17	15.5

ショート介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	0	4	0	0	7	0	0	0	32	3	0	0	46
要支援 2	3	3	3	3	3	3	3	6	16	5	4	15	67
要介護 1	37	58	52	80	69	70	65	65	45	45	60	73	719
要介護 2	47	43	45	67	96	78	55	55	89	63	54	13	705
要介護 3	70	98	73	105	79	112	96	41	58	81	63	99	975
要介護 4	71	70	59	31	38	33	62	73	32	14	42	59	584
要介護 5	13	2	18	4	2	2	2	2	2	2	8	6	63
合 計	241	278	250	290	294	298	283	242	274	213	231	265	3,159
										月平均延べ利用者数			263.3
										年 間 稼 働 率			86.5%
										平 均 介 護 度			2.33

# 小規模多機能型居宅介護事業所 オ・サーバ aioi

## 【事業基本方針】

- ① 指定(介護予防)小規模多機能型居宅介護の提供にあたって、要介護者状態となった場合においても、心身の特性を踏まえて、利用者が可能な限り住み慣れたその居宅において自立した日常生活を営むことができるよう、通いを中心として、利用者の容態や希望に応じて、随時訪問や宿泊を組み合わせて、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排せつ、食事等の介護その他の日常生活上の世話及び機能訓練等を行う。更には利用者の心身機能の維持回復を図り、生活機能の維持又は向上を目指す。
- ② 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供を行う。
- ③ 利用者の要介護状態の軽減若しくは悪化の防止又は要介護状態になることの予防に資するよう、その目標を設定し、計画的に行う。
- ④ 利用者の所在する市町村、居宅介護支援事業者、地域包括支援センター、他の地域密着型サービス事業者又は居宅サービス事業者、主治医、保健医療サービス及び福祉サービスを提供する者、地域住民等との連携に努める。

## 【目的】

**人の為に走れ ～自分らしい生活を送るためのサポートを全力で行います！～**

在宅生活を送る要介護（要支援）の高齢者に 24 時間 365 日の安心を感じられるサービスを提供することで、自宅での生活を可能な限り続けることができるように支援する。

## 【具体的事業報告】

- ・収支は年度を通して厳しい状況であった。
- ・マンパワー不足から短期利用の受け入れはほぼ行わなかった。
- ・登録数は定員の 25 名に達することはなかったが、問い合わせ、検討段階のケースを含めると満員、次の定員増に向けて動く必要を感じる時期はあった。

## 【令和 5 年度の状況・評価】

- ・年度当初から退職による職員不足の状況が発生し、ほぼ解消されることがなかった。残業、休日出勤が常態化してしまっていたが、それでもそれ以上の欠員が生じることなく 1 年を乗り越えられたのは次年度に向けて大きかった。
- ・上記の状況により日々の業務を回すことに注力しすぎ、マネジメントが不在となる期間が長かった。長期的な視点に基づいた活動ができていなかった。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

- ・10月には登録数を29名に、年内に登録29名を獲得する。  
定員を開設当初の目標である29名に変更することができなかった。
- ・訪問看護事業所との連携で重度利用者、看取りが必要な利用者の受け入れを可能とする。平均要介護度は年内に2.5以上を目指す。  
訪問看護事業所との連携で、要介護3以上のケースも利用が継続できている。事業所としての平均要介護度は目標の2.5以上には達しなかった。
- ・在宅生活の継続が困難で施設入居を希望されるケースには、ひとつの会系列の施設を紹介し、スムーズなサービス移行を支援する。紹介を3件以上行う。  
併設の特養へのサービス移行者1名あり。今年度はグループホームへの紹介者はなかった。
- ・「個別活動」「地域での役割を担う」この取り組みが事業所の特色として認知されるように、運営推進会議で毎回取り組みと実績を報告する。  
運営推進会議で毎回具体的な取り組みを発表し、事業所を印象付けるアピールを行うことができた。

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
要支援 2	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	22
小 計	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	34
要介護 1	6	5	5	5	6	7	8	8	8	9	9	9	85
要介護 2	6	6	5	6	6	6	5	7	7	8	8	8	78
要介護 3	3	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	9
要介護 4	2	4	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	11
要介護 5	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	1	1	18
小 計	18	19	14	15	16	15	15	17	17	19	18	18	201
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	20	21	17	18	19	18	18	20	20	22	21	21	235

介護度別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
要支援 2	30	31	45	62	62	60	62	60	62	62	58	62	656
小 計	60	62	75	93	93	90	93	90	93	93	87	93	1,022
要介護 1	180	155	150	155	179	200	240	240	248	271	235	279	2,532
要介護 2	180	186	150	176	186	180	155	199	217	219	232	248	2,328
要介護 3	90	67	30	31	45	0	0	0	0	0	0	0	263
要介護 4	60	110	60	62	29	0	0	0	0	0	0	0	321
要介護 5	30	31	30	31	62	60	62	60	62	62	29	31	550
小 計	540	549	420	455	501	440	457	499	527	552	496	558	5,994
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	600	611	495	548	594	530	550	589	620	645	583	651	7,016
										月平均延べ利用者数			584.7
										年間稼働率			128.1%
										平均介護度			1.76

宿泊利用

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数	8	10	6	6	8	8	10	8	8	8	7	7	94.0
利用回数	127	166	109	117	131	135	176	171	176	174	153	169	1,804.0
										月平均延べ利用者数			150.3
										年間稼働率			49.4%

利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	1	1	1	2	1	1	2	0	0	2	2	1.3
体験利用	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0.2

# サービス付き高齢者住宅 オ・サーバ aioi

## 【事業基本方針】

高齢者にとって住みやすい住設備と、安否確認や生活相談などのサービスを組み合わせることで、本人、家族共に安心して生活できる環境を提供するように支援を実施する。

## 【目的】

人の為に走れ ～多様な生活の在り方を受け入れられる施設を目指して～

高齢者向け住宅として、一人ひとりの生活の在り方を尊重し、自分らしい暮らしを展開していきける施設づくりを行う。

## 【入居者の状況報告】

### 1. 入・退居状況（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

	入居	退居	(死亡退居)
男性	2名	1名	(1名)
女性	2名	3名	(0名)
合計	4名	4名	(1名)

### 2. 介護度別入居者数（令和6年3月31日現在） 平均介護度（令和6年3月31日現在）：1.5

	介護度1	介護度2	介護度3	介護度4	介護度5	合計
男性	0名	1名	0名	0名	0名	1名
女性	2名	1名	0名	0名	0名	3名
合計	2名	2名	0名	0名	0名	4名

### 3. 年齢別入居者数（令和6年3月31日現在） 平均年齢：92.2歳

	65歳未満	65歳以上 70歳未満	70歳以上 80歳未満	80歳以上 90歳未満	90歳以上	合計
男性	0名	0名	0名	1名	3名	4名
女性	0名	0名	0名	0名	5名	5名
合計	0名	0名	0名	1名	8名	9名

## 【具体的事業報告】

- ・年度中盤に空き室が目立ったが、年度末に近づいて稼働率が上昇した。
- ・併設の特養からの入居希望者の受け入れ、またサ高住から特養への入居に至るケースを支援出来た。

## 【令和5年度の状況・評価】

- ・併設の小多機を利用しない入居者の割合が増えた。日常的な支援をほぼ必要としない反面、小多機利用者とのサービスの違いでトラブルになることもあり、今後の入居者受け入れに際しての反省点となった。
- ・入居には至らないまでも、空き室の問い合わせ、施設見学者は前年度よりも増えている。

## 【令和5年度目標の達成状況】

- ・1年を通しての稼働率の目標を95%とする。  
一年を通して満室になることがなかったが、稼働率は9割以上を維持できた。

- ・外部サービスを利用している入居者様に提供できる実費サービスを創設し、軽介助に対応できる仕組みを整える。

軽介助が必要な利用者様に対して新たなサービスを創設し、入居のハードルを下げる試みを行う予定であったが、まだそのニーズがあるケースがなく、また施設側のマンパワーも足りないため、時期尚早と判断して実施には至っていない。

- ・入居者様または家族からの紹介での入居を1件以上獲得する。  
入居者または家族からの紹介で新規獲得を目指したが、そのようなケースはなかった。  
開設前の内覧会から検討していた方、地域での評判を聞いて入居を決めたケースはあり、以前からの広報活動が実を結んではいる。

- ・重度化した場合の次の受け入れ先として特別養護老人ホームオ・サーバ aioi またはひとつの会系列施設を勧め、移行するケースを昨年度以上に増やす。

特養との連携で、特にショートステイからの入居者受け入れ、逆にサ高住入居者が重度化に伴って特養に入居するケースが増えた。

特養が併設していることで、サ高住入居に際して安心感を抱く家族が多く、複合型施設のメリットが生かされている。

サ高住介護度別月間入居者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要支援 2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3.0
要介護 1	2	2	3	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2.0
要介護 2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	3	2	2	2.0
要介護 3	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
合 計	9	10	10	8	8	8	8	8	9	10	9	9	9.0
男 性	3	3	3	3	3	3	3	3	4	5	4	4	4.0
女 性	6	7	7	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5.0

サ高住介護度別月間延べ入居

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援 1	60	62	60	62	62	60	62	62	62	62	58	62	734
要支援 2	30	62	60	62	62	60	62	62	92	93	87	93	825
要介護 1	60	62	80	62	62	60	62	62	62	62	58	62	754
要介護 2	60	62	60	62	62	60	62	62	62	54	58	62	726
要介護 3	60	39	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	100
要介護 4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	270	287	261	248	248	240	248	248	278	271	261	279	3,139
月平均延べ利用者数													261.6
年 間 稼 働 率													86.0%
平 均 介 護 度													0.9

# 共同生活援助 ひとつの会ホーム

## 【事業基本方針】

- ・ 地域の中に障害者も当たり前の「暮らしの場」を持つ
- ・ 地域の中で役割を持ち、地域の一住民として生活できるよう支援する
- ・ 障害特性に応じた支援を行い、それぞれの利用者にとっての自立を目指す
- ・ 地域住民と共に暮らすことにより、障害者の暮らしを地域に向けて発信していく機会とする

## 【目的】

障害者が、当たり前で地域で暮らすことを実現できるよう、利用者、地域住民双方に働きかけを行っていく。障害者も含め、様々な人が暮らしやすい街を作ることができるよう、障害者の暮らしを通して社会に対し発信、提案を行う。

## 【入居者の状況報告】

- ・ 引き続き7名の定員
- ・ 金銭的に困窮し、生活保護になった利用者もおられる。

## 【具体的事業報告】

- ・ 物価が高騰し、食材費も高騰、食事を予算内に収めることに工夫を要した。
- ・ 物価が上がり、利用者の生活にも影響が出る。本人の工賃や給料は変わらないが生活費が上がっていくため、これまで購入出来ていたものができなくなったりと、生活のしかたを変えざるを得ない場合も散見された。
- ・ 職員の急病による退職があり、その後の補充が出来ず、大幅に業務内容を見直し、職員の勤務形態も変更し業務にあたった。
- ・ 食堂の食事提供は1年経過し、食堂からの食事提供があることで職員の働き方も柔軟に組んでいくことができた。利用者と食堂との関係も良好で、名前も覚えてもらい、気にかけてもらっている。
- ・ 職員の募集の方法を工夫し、地域のボランティア団体に声をかけた。

## 【令和5年度の状況・評価】

- ・ 物価の高騰については、ホームの食事については安いものをまとめて購入する等なるべく食費を抑えることができるように工夫した。  
利用者の生活については、本人たちの理解や納得を得るために話をしていくこと、また、金銭管理を行っている利用者については、権利擁護事業と連携し、本人の生活のしかたの

再構築などを行った。給付金等で必要な物を購入する等はできたが、毎月の小遣い等についてやはり以前よりも厳しくなっており、今後も本人たちと話をしていく必要がある。

- ・ 食堂と連携して食事提供を始めて1年経ち、良い関係が作れてきたと感じる。利用者の名前を覚えてもらい、声をかけてもらっていたり、職場の行き帰りに出会った時の様子なども教えてもらうことができている。食堂からの食事提供が定着し、利用者も食事を取りに行くことや食器を用意するなど、自発的に手伝うことができている。食堂からの食事提供が定着していることで、職員募集も料理を業務内容に含まない募集も可能となり、募集をかけることのできる幅が広がったと感じている。

## 【令和5年度目標の達成状況】

### 1. 新規利用者の支援の定着

新規の利用者も、利用開始から1年以上は経ち、コミュニケーションの方法も利用者、職員、共に慣れてきている。単純な衣食住の支援だけでなく、金銭管理等、生活全般に支援が必要な利用者が多い為、そのための知識を職員が付けることで、支援もできるようになったと感じる。日々の、メール等での情報提供や、支援方法の連絡等で少しずつ支援方法の習得を図ることができている。

### 2. 新しいGHの業務の在り方、地域の食堂や学生を巻き込んだ運営のしかたの模索

慢性的な世話人不足であり、これまでのやり方を一新した募集のしかたが求められる。食堂からの食事提供が定着したことで、職員募集の幅を広げることができている。応募者の意見から、世話の業務を再度見直し、業務を分解、夜の業務も食事作りのみ、食事の配布のみ等に分けることで、多様な勤務時間や勤務内容に対応することができるようになった。

### 3. 発達障害に対する支援力の強化

発達障害に対する知識を付けていくことがまず第一で、職員会議や、何か対応すべきことが起こった時に、その起こったことの内容や対応方法を共有することによって、少しずつ発達障害に対する理解が深まってきていると感じる。

グループラインを利用し始めることによって、勤務日数が少ない職員同士がよりわかり易く状況を把握することができるようになり、また支援方法や、考え方を他職員共有することも、支援力の底上げになっていると感じる。

支援区分別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	72
合計	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84

支援区分別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
区分2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
区分3	25	26	26	28	27	25	25	25	26	26	18	26	303	
区分4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
区分5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
区分6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	180	184	180	186	217	179	186	180	184	185	174	186	2,221	
合計	205	210	206	214	244	204	211	205	210	211	192	212	2,524	
													月平均延べ利用者数	210.3
													年間稼働率	138.3%

# 生活介護事業所 トイロ

## 【事業基本方針】

- ・利用者が地域社会の中で、それぞれの強みを生かした役割を持てるよう支援する。
- ・様々な経験をする機会を提供し、生涯を通じ経験を重ねていけるよう支援する。
- ・ライフステージに応じた、利用者の生活全体を見据えた適切な支援をすることによって将来にわたり利用者を支える。
- ・障害者が地域社会と接する機会を増やすことで、新たな価値観をつくり、子供から障害者、高齢者まで誰もが暮らしやすく、良さを発揮できる地域づくりに貢献する。

## 【目的】

誰もが地域社会の中で役割を持ちながら、その人らしい生活が営めるよう、日中に集い、活動できる場を提供し、地域での生活を支える。

障害の有無に関わらず、誰もが互いを認め合いながら、それぞれの良さを発揮できる地域づくりに貢献する。

事業所が地域にあることによる、地域の活性化を目指す。

## 【利用者の状況報告】

自閉症、強度行動障害の利用者が増加している。

また家庭や生活に問題を抱え、家族支援も含めて必要な利用者も増えている。

## 【具体的事業報告】

- ・家庭や生活の問題が解決しない、家族支援の必要な利用者が増えた。関係機関と情報共有しながら、トイロの立ち位置、役割を考えながら支援した。通所だけではない、一步踏み込んだ支援が必要なケースに対しての関わりをより深く考える機会となる。
- ・様々な障害特性の利用者が増えていくことで、場の共有の工夫がより必要となった。机の位置やパーテーションなどの工夫をして、負担なく場が共有できるように努めた。
- ・点訳すぎなの会さんのご厚意で、点字新聞を提供していただき、新たに点字の用紙を使用した自主製品作りに取り組んだ。元々関わりのあるボランティアさんからのご紹介で、ご縁が繋がっていくことを感じている。
- ・利用者は年々増加していくが、職員数が増えず、利用希望者の実習や利用受け入れに苦慮した。利用者同士の相性が良くても、人員が割けず、利用を断らざるを得ない

曜日も出てきている。

- ・近所の管内幼稚園さんでの野菜の販売は今年度も行った。珍しい野菜については食べ方を簡単に説明するポップを作って行ったりと、より有機野菜に親しんでもらうこと、また同時に利用者に触れ合ってもらえる機会を作ることを目指した。

## 【令和5年度の状況・評価】

- ・家族支援が必要な利用者に対しての関わりをより深く考える機会となった。家庭に入り込まなければ通所することが難しく、事業所全体や他利用者のことも考えつつの一步踏み込んだ関わりは、関係機関との密な連携がなければ成り立たず、より連携の強化に努め、事業所で可能なことや限界、工夫を考える機会となった。
- ・特定の曜日以外は利用者が10人を超えてきて、室内で、多様な障害特性を持った利用者が場を共有する工夫をより深めていくこととなった。構造化していくことや、ハード面以外にも過ごし方を工夫してあげることによって過ごせることもあり、多方面での工夫が有効であることを実感することができた。
- ・トイレ開所以来、ずっと地域のボランティアさんと活動と一緒にやってきたが、その活動の積み重ねが、更なる人の広がりにつながっていると感じている。トイレの自主製品をずっと置いてくださっている地域のお店も、製品や作り手の利用者に理解があり、地域との協働が積み重なってきていることを実感することができた。管内幼稚園さんも販売を始めて1年経ち、少しずつトイレの利用者のことを園児や保護者の方が理解してくださっているのを感じている。
- ・畑をずっと一緒に作ってきた囲炉裏の会さんが、高齢化を理由に菜園活動から撤退された。また、草刈りをしてくださっていた地主さんも亡くなられ、トイレの畑での活動を支えてくださっていた方々の状況の変化が立て続けにあった。畑班の職員の作業準備の負担が大きくなるため、新たに個人的に協力していただけるボランティアさんには引き続き協力をお願いした。何とか少しでも周囲の協力体制を維持できるようにしていきたい。

## 【令和5年度目標の達成状況】

### 1. 強度行動障害への支援力の強化

毎年1名ずつ強度行動障害支援者養成研修を受講しており、令和5年度で3人目が受講することができた。研修を受講済みの職員が現場に増えていくことで、強度行動障害の利用者に対する支援力の底上げができています。

## 2. 野菜や自主製品の販売を通じた地域とのつながり作り

開所して5年目となり、トイロで作った有機野菜や自主製品を知っていただけている地域の方は確実に広がっていると感じている。野菜や自主製品を知っていただくだけでなく、関わってくださっている方の繋がりが広がっていると感じる。有機栽培で栽培した野菜であることも周知されてきている。

## 3. 地域に向けた情報の発信

山口学芸大学の障害者理解の講義の協力をすることで、学生に対して障害者の生活を紹介し、理解してもらえる機会を作ることができた。来年度以降も継続して講義に協力してほしいとあってくださっており、今後、継続して関わることで蓄積されていくものがあると良い。

## 4. 職員の研修機会の確保

強度行動障害の研修の他に、今年度は有機栽培教室を2人目の職員が受講した。より地域の方に安心して購入していただける野菜作りにつながっている。有機栽培の野菜としてトイロの野菜を買い求めてくださる方もおられ、研修を受けた職員が複数いることによって、より責任ある野菜作りにつなげていきたい。

## 支援区分別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
区分2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12
区分3	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	7
区分4	5	5	5	6	5	6	6	6	6	6	6	6	68
区分5	9	9	9	8	9	9	9	9	9	9	9	9	107
区分6	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	25	25	25	26	25	27	27	26	27	27	27	27	314

## 支援区分別月間延べ利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
区分1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
区分2	18	19	20	17	19	18	19	16	15	19	16	19	215	
区分3	0	0	0	1	0	1	1	0	1	1	1	1	7	
区分4	36	22	25	26	22	25	29	31	29	27	29	39	340	
区分5	58	68	68	62	68	63	72	65	61	49	49	51	734	
区分6	69	71	76	67	72	73	73	73	75	66	64	70	849	
実費利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計	181	180	189	173	181	180	194	185	181	162	159	180	2,145	
													月平均延べ利用者数	178.8
													年間稼働率	27.5%

## 利用動向

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
新規利用	2	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0.3
体験利用	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

# **あいおい苑 居宅介護支援事業所**

## **【事業基本方針】**

利用者が望む在宅での暮らしを実現できるよう有する能力と、周囲の介護力や社会資源を有効活用しながら自立した生活ができるよう支援する。また、利用者を中心として関係機関や各サービスと連携を保ちながら、その人の望む暮らしの実現に向けてサービス調整を行う。

## **【目的】**

利用者の自己決定を尊重し、住み慣れた自宅で暮らせるよう中立、公正な視点でサービス利用の確認や調整を行う。利用者の中にある潜在的なニーズを把握し、専門職として代弁できるように支援する。

## **【具体的事業報告】**

1. 利用者が望むべき在宅生活を送れるよう、必要なサービスや社会資源の中から自己選択できるようにしていく。  
A：利用者や家族が望む在宅生活を聞き取り、アセスメントを繰り返しながら必要なサービスや社会資源の提供をして自己選択できるように丁寧に対応した。
2. 市・地域包括支援センター・民生委員・医療機関・介護保険施設・障害者特定相談支援事業者などとの連携を図り、利用者を包括的に支えていけるよう、体制の一翼を担う。  
A：各関連機関との連携を密に図りながら、利用者と家族を包括的に支えて行けるように必要な体制の一翼を担える対応をした。
3. 新規利用者を継続的に獲得し、担当それぞれの件数の増加、運営基準遵守を意識しながら自法人の在宅・施設サービス利用率や空床利用につなげていく。  
A：新規利用者や特定事業所として緊急対応が必要な利用者への調整対応を引き継ぎ、運営基準遵守を意識しながら、件数の増加へつなげる対応をした。
4. 自己知識・技術の向上を図れるよう各種研修に意欲的に参加、また参加した後には毎週開催する事業所内会議においてフィードバックを行いそれぞれがスキルアップを目指していく。  
A：医療や障害やヤングケアラーや防災等の介護保険以外の研修にも積極的に参加して自己知識・技術の向上が図れるよう意欲的に研修参加しスキルアップにつなげてきた。

## **【令和5年度の状況・評価】**

新規は年間60件で月平均5件の獲得を行い、各包括からの依頼も多く協働で動くことで各関連機関と信頼関係の強化ができた。また利用者や家族の意向を尊重し住み慣れた地域で自立した生活ができるように利用者の立場にたった支援を行った。

## 【令和 5 年度目標の達成状況】

1. 特定事業所として果たすべき機能と役割を把握し、法令を遵守しながら、誠実迅速に業務を行うことで信頼度の向上、新規ケースの積極的な受け入れにつなげていく。  
A: 特定事業所として緊急対応が必要な利用者への調整対応を積極的に引き継ぎ、法令を遵守しながら、新規は年間 60 件で月平均 5 件のケースを獲得し、件数の増加へつなげる対応をした。
  
2. 中重度者や支援困難ケース、医療・介護連携を積極的に取り組み、迅速な対応ができるよう、新たな社会資源の発掘など、利用者には有益な情報を伝えることができるようそれぞれが研修参加（Zoom）や自己学習を行い、自己研鑽に努める。  
A: 中重度者や支援困難ケース、医療・介護連携を積極的に取り組み、迅速な対応がとれるよう、医療や障害やヤングケアラーや防災等の介護保険以外の研修にも積極的に参加して自己知識・技術の向上が図れるよう意欲的に研修参加しスキルアップにつなげてきた。
  
3. 医療・介護・福祉ニーズが多様化・高度化し、「介護保険の要」と呼ばれている介護支援専門員ひとりひとりに求められるものも大きくなっている現在、利用者が住み慣れた地域でより長く主体的に生活していけるよう、互いに相談・協力しながら対応していく。  
A: 医療・介護・福祉ニーズが多様化・高度化している中、各サービス事業所や各関連機関との相談・調整・連携・協力しながら、利用者や家族への支援をしてきた。また地域の民生委員等と連携しながら対応してきた。

あいおい苑 居宅介護支援事業所

介護度別利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
要支援 1	5	5	5	5	4	5	4	4	4	4	4	5	4.5
要支援 2	13	12	10	10	10	10	12	12	11	11	11	11	11.1
総合事業	3	3	3	3	4	3	3	3	3	3	4	3	3.2
小計	21	20	18	18	18	18	19	19	18	18	19	19	18.8
要介護 1	57	62	58	57	59	56	57	54	53	52	54	56	56.3
要介護 2	17	22	23	23	25	22	22	21	21	21	21	17	21.3
要介護 3	13	16	16	16	18	15	15	14	13	13	15	15	14.9
要介護 4	16	14	14	14	12	11	11	11	9	9	8	12	11.8
要介護 5	4	4	5	5	5	4	5	4	4	4	4	4	4.3
小計	107	118	116	115	119	108	110	104	100	99	102	104	108.5
合計	128	138	134	133	137	126	129	123	118	117	121	123	127.3
年間利用者数												1,527	

訪問調査委託

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
防府市	3	6	5	6	8	2	9	2	9	6	4	5	5.4
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0

3520円/1件

3300円/1件

# 北地域包括支援センター

## 【事業基本方針】

介護保険法に規定される基準に従い、保健師等、主任介護支援専門員、社会福祉士、生活支援コーディネーター、自立支援コーディネーター等の専門職種を配置し、それぞれが専門分野での役割を担い、職員全員が連携して知識や技能を結集し、地域包括ケアの提供に向けて運営を行う。

地域住民が住み慣れた地域で、安心して尊厳ある生活を継続することができるように、介護保険事業や福祉事業等による公的サービスのみならず、その他のフォーマル・インフォーマルサービスによる多様な社会資源を活用できるように、包括的及び継続的に支援する。

防府市の北地区（佐波、右田、玉祖、小野）における介護・福祉行政の一翼を担う公的な機関として、公正で中立性の高い事業運営を行う。

## 【目的】

高齢者の心身の健康保持及び生活の安定に必要な援助を行うため、センターを日常生活圏域の中核機関として設置する。

## 【具体的事業報告】

### ① 総合相談対応事業

住民に身近な総合相談窓口として信頼を得られるよう、親切丁寧な対応に努めた。

複合的課題を抱えている利用者やご家族、支援が困難な利用者に対しては、行政機関や他関係機関、地区の民生委員・福祉員・ゆうあい訪問員等と連携を密にとり対応した。地域包括支援センターに関して、地域住民への講座や民生委員協議会への参加を通して普及啓発活動を行った。

### ② 介護予防ケアマネジメント事業

介護予防に対する取り組みを高齢者が自主的・継続的に行えるように意欲の向上を図るとともに、必要な知識の普及啓発に努めた。

また、予防に関して積極的に取り組み、地域のサロン、住民の活動についての情報提供を行い、要支援・要介護の重度化の抑制・自立支援の視点に立った介護予防サービス計画の作成に努めた。

短期集中予防型サービスについては利用者の参加・同意を得て、通所施設やリハビリ専門職、栄養士、薬剤師等と協力をしながら、「地域で今まで通りの生活を継続する」を目標に支援してきた。短期集中予防型通所サービスを卒業した方々について介護予防手

帳を交付し、1年間のフォローアップを継続している。

介護サービスに頼らず元の生活に戻ること、高齢者の力を信じてポジティブフィードバックを行い、元の生活に戻れてよかったと実感できる体制が作れるよう、リハビリ専門職とも協働し引き続き支援を行う。

### ③ 権利擁護事業

虐待対応や権利擁護についての相談に関しては、各機関と協力体制をとり利用者が安心して生活できるように終結を視野に入れて相談支援を行う。

被虐待者だけの支援だけでなく養護者支援に力を入れ虐待の連鎖が起こらない様努めた。また、必要な方には成年後見制度につなげ利用者の権利を守る対応を行った。

市や地域関係団体と連携を深め、虐待の早期発見や見守り・相談支援に努めた。また、成年後見制度や虐待防止に関する研修に参加し、知識の向上に努めた。

### ④ 包括的・継続的ケアマネジメント事業

サービス調整が難しい対象者に対し、ケアマネージャーやサービス提供事業者と随時同行訪問を行う事で、ケースの把握・支援課題の明確化に努めた。

### ⑤ 地域ケア会議の開催

複合的問題を抱える高齢者世帯、サービスが上手く導入できない対象者世帯に対して「個別地域ケア会議」を開催し、各機関と役割分担・協働を行い支援を継続している。高齢者の自立を促し、自分らしい生活を取り戻してもらうため自立支援型地域ケア会議に月1回参加し、事業所として毎回1事例の提供を継続して行っている。

### ⑥ 生活支援コーディネーター

専任の生活支援コーディネーターを配置し、社会資源の開発や地域の元気アップ体操の場づくりを行った。住民主体の活動を支援することで、地域の介護予防となり、地域の方々から困りごとの情報も入ってくるようになった。地域のインフォーマルサービス情報についても各機関に向けて発信を行った。

### ⑦ 自立支援コーディネーター

自立支援コーディネーターを配置し、自立支援型地域ケア会議の運営、短期集中予防型サービスにかかるリハビリ専門職との同行訪問、事業所内の拠点会議を随時開催している。個別事例を通してその人の自立支援とは何かを考え、生活支援コーディネーターや担当ケアマネと情報を共有しながら、「その人らしい暮らし」に向けて支援を継続している。

## 【令和5年度の状況・評価】

市の委託業務を受け、個別の総合相談対応や地域づくり、関係機関とのネットワーク構築に努めた。支援の必要な高齢者を自立支援を目標に掲げ適切なサービスに繋げること、介護予防にも力を入れ、地域包括としての認知度も向上したと考える。

認知症高齢者の相談に関して、認知症疾患センター等と連携を取り地域で自分らしく暮らせるよう本人・家族支援、近隣の方へ対応方法の周知、サービス事業者との連携を行ってきた。

利用者のアセスメント、リハ職アセスメントを多職種協働で行い、必要に応じて短期集中予防型サービスへの調整を行った。利用者の自立支援とは何かを包括内で共有し、実際の支援の視点に役立てている。

包括内での職種別主催の勉強会、拠点会議を通し、職員間の知識や利用者支援の方向性の統一を行ってきた。自立支援コーディネーターを中心として、利用者の自立支援に向けてさらに深化させたいと考える。

生活支援コーディネートとして、生活支援コーディネーターを中心に、地域の介護予防啓発に努め、住民主体の活動の支援を継続している。

今後も地域のネットワーク作りの強化を行い、実態把握や地域包括支援センターの周知を行うことで、状況に応じた切れ目のない相談支援体制構築を行う。

## 令和5年度実績表

## ・総合相談件数

(単位 件)

相談方法	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	107	78	89	81	81	81	79	55	45	63	71	94	924
電話	137	156	168	140	139	132	112	101	136	117	116	108	1562
来所	26	23	19	17	24	16	13	13	18	18	21	13	221
その他	12	14	17	8	7	12	8	2	5	8	7	7	107
計	282	271	293	246	251	241	212	171	204	206	215	222	2814

\*その他：事業所との連絡調整等協議

## ・総合相談内容実績内訳(複数記入)

(単位 件)

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
認知症(疑い含む)	77	74	80	50	58	59	53	28	35	32	48	71	665
障害(精神・知的)分野の相談	23	12	9	7	15	7	3	2	13	0	2	2	95
障害(身体)分野の相談	0	0	1	0	0	0	5	3	2	0	1	2	14
介護保険に関すること(代行申請含む)	123	90	135	107	115	105	115	81	79	99	73	108	1230
介護・ケアの内容に関すること	3	8	5	23	7	23	24	18	15	10	4	10	150
ケアマネージャ紹介	8	2	13	6	4	3	8	3	3	4	2	5	61
介護予防・生活支援に関すること	29	33	25	31	34	24	22	19	29	30	27	41	344
医療に関すること	19	36	48	20	26	23	18	12	12	5	7	11	237
虐待(疑い含む)	0	9	20	14	5	11	14	2	0	6	18	3	102
成年後見制度の活用	15	17	7	5	9	0	0	0	0	4	3	3	63
自費・インフォーマルサービス等に関すること	10	15	22	21	10	13	15	3	6	9	4	3	131
施設に関すること	25	19	5	8	8	13	4	6	7	7	8	10	120
経済的な問題	22	35	17	14	4	11	1	8	9	7	20	11	159
高齢者の身元問い合わせ	5	3	1	1	3	0	0	0	1	0	0	0	14
アルコール問題にかかわること	4	4	0	0	0	1	0	2	2	1	1	2	17
介護サービス・事業所職員等の苦情	1	3	2	0	0	0	6	4	5	7	0	0	28
その他	42	35	60	40	56	39	34	19	47	28	39	20	459
計	406	395	450	347	354	332	322	210	265	249	257	302	3889

## ・介護予防支援・介護予防ケアマネジメント訪問件数

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	201	209	226	173	174	181	183	194	200	151	163	191	2246

## ・要支援1・2と認定された方のケアプラン件数(給付管理の対象となった件数)

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要支援1	122	117	116	116	118	118	115	114	113	110	122	120	1401
要支援2	145	144	149	148	149	146	152	156	159	158	160	154	1820
事業対象者	67	64	67	61	60	60	60	56	55	48	50	49	697
計	334	325	332	325	327	324	327	326	327	316	332	323	3918
うち委託件数	91	89	93	93	92	93	93	91	88	85	91	88	1087

## ・介護予防支援・ケアマネジメント内訳

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
介護予防給付	189	188	190	190	192	193	196	198	199	197	205	204	2341
総合事業	145	137	142	135	135	131	131	128	128	119	127	119	1577

## 圏域地区講話

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
佐波	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	3
右田	0	0	0	0	1	0	0	2	0	1	1	0	5
小野	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1

## ・運営推進会議

(単位 件)

内訳	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
スローライフ	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	1	0	6
なんてんデイ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
スワン	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2
サンコープデイ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2
初梅	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	5

民生委員協議会 右田・玉祖地区:2回、小野地区:2回、佐波地区:2回

# 地域サポートセンター オ・サーバ

## 【事業基本方針】

利用者が望む在宅での暮らしを実現できるよう有する能力と周囲の介護力や社会資源を有効活用しながら自立した生活ができるよう支援する。また、利用者を中心として関係機関や各サービスと連携を保ちながら、その人の望む暮らしの実現に向けてサービス調整を行う。行政・地域包括支援センター・民生委員・各病院地域連携室との連携を図り地域の高齢者と家族の円滑な支援を行い地域に貢献する。

## 【目的】

利用者の自己決定を尊重し、住み慣れた自宅で暮らせるよう中立、公正な視点でサービス利用の確認や調整を行う。利用者の中にある潜在的なニーズ・残存能力を把握し、専門職として代弁できるように支援する。コロナ感染により看取り時病院・施設での家族・親族の面会ができない為、在宅での看取り希望が増えているような緊急・困難状況を勘案し在宅での本人支援の充実と家族の介護負担・精神的負担軽減を図る。

## 【具体的事業報告】

- 1.利用者に必要な新しい情報を提供し、様々なサービス事業所から自己選択を促し、CM、ご利用者、ご家族との信頼関係の構築を図った。また、地域包括支援センター、民生委員等、利用者の地域で関わる人との連携を大切にし、各地域民生委員との協議会に参加し地域の問題点を把握すると共に、協力して支援必要な高齢者を地域の目の中で支えていける体制づくりを常に心掛けた。
- 2.新規利用者の積極的に獲得すると共に困難事例などの扱いによる職員の負担を考慮しながら、集中減算に該当しないよう依頼事業所の選定をコンプライアンスに配慮しながら行い、同法人の紹介率の維持、向上を優先しながらも利用者・ご家族の意向確認しながら法人貢献を図り法人内の連携を図ることを主眼とし相談連携を深めた。
- 3.自己の知識、技術を高められるよう事業所内外の研修に参加し、復命を行い各担当が情報を共有すると共に管理者要件でもある任ケアマネの資格取得を目指し研修に参加し職員全員主任ケアマネの資格を取得した。
- 4.特定事業所としての機能を認識し、適正な運営を行えるよう他支援事業所と情報提供を行った。
- 5.居宅連絡会議 毎週（火曜日）8：30～
- 6.資格維持の為必要な必修主任ケアマネ又ケアマネの更新研修参加
- 7.医療や障害等の介護保険以外のサービス研修
- 8.BCPに関わる研修やマニュアル作成に参加し今後の支援活動に必要な事柄を学んだ

### 【令和5年度の状況・評価】

- 1.介護給付のケアマネジメントにおいては、時期的・季節的に入院・入所等が重なり終了となる方が多く、一時的に利用者急減がかなりあったが困難事例含め積極的に新規獲得活動を行い収益・利益確保を行った。
- 2.新規ケースについては職員の活動状況・負担を考えながら通年を通して出来るだけ断ることなく獲得を行った。基幹包括・各地域包括・病院の地域連携室からの依頼もあり、困難事例に積極的に取り組み解決することにより関係機関との信頼関係の強化ができた。
- 3.各担当が、コンプライアンスを遵守し、適切に業務を行うことで利用者又はそのご家族と信頼関係を形成でき、そこから知人や親類へ紹介していただくケースも増えた。
- 4, 最近特に女性ケアマネが対応できないセクハラ・DV等への対応必要な男性利用者への支援依頼が多くなってきている。出来るだけ対応しながら今後も利用者拡大につなげたいと考えている。その為にも男性ケアマネの配置が必要になると思われる

### 【令和5年度目標の達成状況】

包括支援センター・基幹包括・医師・専門職と連携を取り利用者の安全・安心な日常生活に寄与出来る様努力する

包括支援センター・基幹包括・医師・専門職とは密に連携し相互信頼を得るとともにお互いの専門分野について検討し困難事例含め正確に対応できた

介護度別月間利用者数

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
事業対象者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援 2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護 1	46	46	48	48	46	49	51	47	47	47	42	0	517
要介護 2	24	28	25	25	26	26	25	24	27	25	29	0	284
要介護 3	17	19	17	17	19	19	20	18	18	17	17	0	198
要介護 4	15	13	14	13	14	14	14	15	12	10	8	0	142
要介護 5	8	8	9	8	8	8	10	8	10	10	9	0	96
小計	110	114	113	111	113	116	120	112	114	109	105	0	1,237
合計	110	114	113	111	113	116	120	112	114	109	105	0	1,237
												月平均利用者数	102.5

訪問調査委託

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
山口市	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
山陽小野田	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3